

茨 城 大 学

大 学 院 学 生 便 覧
(専門職学位課程)

令 和 7 年 度
(2025)

教 育 学 研 究 科

この冊子の目的と注意

この冊子は茨城大学大学院教育学研究科(以下、教育学研究科)で学ぶに当たって、学生が参照すべき事項をまとめたものです。これからも毎年度微修正される可能性がありますので、毎年度配布される冊子を参照してください。重要な規則改定に関しては適用学生の入学年度を示してあります。疑問の箇所は各自で解釈しないで、各専修の専門委員または学務グループで確認してください。

目 次

教育学研究科における教育・研究の目的

I	教育学研究科の概要	1
1	茨城大学大学院教育学研究科を運営するに当たって準拠する規則	
2	教育学研究科の組織構成	
3	各コースの教育目的	
4	教育学研究科の運営体制	
5	指導体制	
6	履修方法	
7	試験及び成績評価	
8	修了要件と学位	
9	教員免許状について	
10	実践研究報告書の作成について	
11	1年間に履修可能な単位数	
12	学生相談の体制	
13	奨学金・授業料免除・奨学金返還免除	
14	地域志向教育について	
II	実習科目	8
III	規則	12
1	茨城大学教育学研究科規程	
2	サステナビリティ 概要	
IV	開講授業科目	29
	開講授業科目一覧	
V	履修計画指針(カリキュラムモデル・コースツリー)	40
VI	授業科目とディプロマポリシーの対応表	53
VII	授業時間割	60
VIII	教員への連絡方法・オフィスアワー等	69
IX	科目ナンバリングコード	74

教育学研究科における教育・研究の目的

教育上の目的

- ・多様な子どもを深く理解し、すべての子どもの力を伸ばす高い実践力を有する教員を養成すること
- ・社会や地域の教育課題を理論的に追及し、学校内外の人々と協働して解決に取り組むことができる教員を養成すること

教員養成の高度化をめざして

教職大学院は高度専門職業人の養成を目的とする専門職学位課程に位置づいています。すなわち、教員養成の高度化をめざした大学院です。大学院に進学された皆さんの想いはさまざまかと思います。たとえば、現職教員の方にとっては「キャリアアップを図りたい」、「これまでの実践の集大成をしたい」などの想いがあるかもしれません。学部新卒者等の方にとっては「実践力を身につけたい」「研究をつづけたい」などの想いがあるかもしれません。そのような想いに応えるべく、本学の教職大学院には多様な授業科目が用意されています。さらに、大学院での学修の中では、コース内、ときにはコースを超えた学生間での交流、そして大学教員とのディスカッションを通じた関係性の深まりがあります。これらの学修をとおして、ディプロマ・ポリシーに挙げている3つの力（子どもを深く理解する力、深い専門性、広い視野）を修得してもらえたらと思います。

大学院教育学研究科長 勝 二 博 亮

カリキュラム・ポリシー

教育学研究科教育実践高度化専攻では、ディプロマ・ポリシーに掲げる三つの能力を身に付けさせるために、以下の方針にしたがって、共通科目、専門科目、実習科目から構成されるカリキュラムを編成する。

- ①共通科目としての5領域（「教育課程の編成・実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導、教育相談に関する領域」「学級経営、学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」）に加えて、第6領域「学校改善と校内研修に関する領域」によって学校全体に貢献できる力を育成するとともに、各コース（学校運営、教育方法開発、児童生徒支援、教科領域、特別支援科学、養護科学）の専門科目及び実習科目によって、教育者としての使命感と豊かな人間性を有し、子ども理解に基づく高度な専門性を有する実践力を身に付けさせる。
- ②教育課程の編成・実施に関する領域には、カリキュラム・マネジメント能力に関わる6コース共通の科目を設けるほか、教科等の実践的な指導方法に関する領域、生徒指導、教育相談に関する領域、学級経営、学校経営に関する領域、学校教育と教員の在り方に関する領域及び学校改善と校内研修に関する領域では三つの能力の基礎となる内容を備えたコース共通の科目を設ける。
- ③専門科目については、三つの能力を身に付けさせるために、コース別で学ぶ科目に加え、コース間を融合した科目を設定する。
- ④共通科目、専門科目ともに、講義と演習を有機的に組み合わせ、能動的な学修を行えるようにする。学修の成果は、授業中の発表、レポート、テスト等により適切に評価するとともに、実習においてその成果が発揮できるかどうかを評価する。
- ⑤実習科目においては、高度専門職業人としての知識、技能及び自立的に課題を発見し、解決できる実践力を身に付けさせるために、学校等の教育関連現場における実習と省察を重視し、各コースの専門性に応じた理論と実践の架橋・往還する力を身に付けさせる。
- ⑥単位の実質化を図り、各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行うとともに、学修成果の可視化に努め、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を推進する。

ディプロマ・ポリシー

教育学研究科教育実践高度化専攻は、倫理観・使命感を持ち、高度な専門性と教育者としての資質能力に優れた人間性を有し、変化の激しい教育現場において、誰も置き去りにしない、すべての子どもの力を伸ばす教員の育成をめざして、カリキュラム・マネジメント能力を備えた高度な教育実践力を有した教員を養成する。そのために、「子どもを深く理解できる力」、「広い視野」、「深い専門性」、の三つの能力を身に付けた者に修了を認定し、教職修士（専門職）の学位を授与する。

1. 「子どもを深く理解できる力」

子どもの諸能力・技能を多面的に評価するとともに、子どもの願いや苦悩に寄り添い、またその背景にある環境にも目を配りながら、子どもの真の学習ニーズを理解できる力。

2. 「広い視野」

社会の変化やニーズと子どもの実態を踏まえながら、同僚や様々な人と協働し、学際的・多面的な広い視野で教育上の課題を探究できる力。

3. 「深い専門性」

子ども理解や広い視野に基づく教育上の課題と自分の専門分野を結び付けて、その課題解決のための方法をさらに深く追究できる力。

I 教育学研究科の概要

I 茨城大学教育学研究科の概要

1 茨城大学大学院教育学研究科を運営するに当たって準拠する規則

学校教育法に基づく大学院設置基準 (昭和49年6月20日 文部省令第二十八号)
茨城大学学則
茨城大学大学院学則 (以下「大学院学則」)
茨城大学学位規則 (以下「学位規則」)
茨城大学大学院教育学研究科規程 (以下「研究科規程」) (本便覧に収録)

その他各種申し合わせ事項及び各種ガイドライン等
この便覧は、それらから学生に必要なと思われる内容を編集したものである。

2 教育学研究科の組織構成

茨城大学大学院教育学研究科は、次の課程、コースを置く。(研究科規程第3条)

(専門職学位課程)

教育実践高度化専攻 学校運営コース
教育方法開発コース
児童生徒支援コース
教科領域コース
特別支援科学コース
養護科学コース

3 教育実践高度化専攻の人材養成上の目的

教育実践高度化専攻が行う人材養成上の目的は以下の通りである。

- ア 多様な子どもを深く理解し、すべての子どもの力を伸ばす高い実践力を有する教員を養成すること。
- イ 社会や地域の教育課題を理論的に追究し、学校内外の人々と協働して解決に取り組むことができる教員を養成すること。

4 教育学研究科の運営体制

教育学研究科の諸事項は大学院教育学研究科教員で組織する研究科委員会で審議し、決定する。各コースにはコース主任及び専任教員(重なる場合もある)がおり、コースに関わる諸事項を担当する。種々の事項については、専任教員で構成される専門委員会において審議し、研究科委員会に提案する。

5 指導体制

各学生には指導教員と1名以上の副指導教員を定める。指導教員が中心となって、各学生がテーマとする課題の学修の指導を行うとともに、日常の連絡の窓口、緊急時の対応などを支援する。

また、実習については各コースの特徴があるため、所属するコースの専任教員からの説明等をよく理解することが必要であるが、各コースの専任教員が中心となって実習校（施設）の担当者と連絡を取りながら充実した実習指導を行う。

講義科目等における指導体制については、講義や内容によって、T T授業、コース内集団指導等、柔軟な形態をとることで、より効果の高い指導を行う。

6 履修方法

後掲の「研究科規程 別表3」の備考欄に指定された授業科目を履修する（研究科規程第7条）。履修する授業科目は必修科目と選択科目とに分かれる。各コースによって指定が違うので別表で確認すること。

ただし、研究科規程別表記載の授業科目のすべてが開講されているとは限らないので注意すること。開講授業科目は本便覧所収の「開講授業科目一覧」に掲載されている。

修了に必要な最低単位は別表欄（研究科規程別表参照）で指定された授業科目48単位である。コース毎にバランスの取れた履修モデルを提供しているので、それを参考に計画をたてること。前学期または後学期始めに、履修登録を行うこと。

なお、本専攻では、単位の過剰登録を防ぎ、十分な予習・復習時間を確保し単位の実質化を図るため、1年間に履修登録できる単位数の上限を44単位と設定している。ただし、修了要件外の授業科目及び集中講義は上限単位数に含まれない。

また、他研究科での授業科目は自由単位（修了要件にしない）として認める。その履修は、前もって当該授業の担当教員及び主担当教員の承諾を得ること。履修を研究科委員会が了承して単位として認められる。

また、教員免許状取得等の関係で学部の科目等履修生（単位取得をする）になる場合、在学中24単位の修得を認める（科目数は不問とする）。

注意事項

① 履修科目の登録：履修する授業がきまったら、授業の登録を行う。詳しくは「教務情報ポータルシステム履修登録マニュアル」（茨城大学HP→在学生→教務情報ポータルシステム）を参照すること。なお、後学期についても同様である。集中講義の具体的な実施時期などは各授業科目で異なる。日程については授業担当教員から個別に連絡がある他、教務情報ポータルにて個別に開講予告を行う場合もあるため、案内掲示に注意すること。

② 履修登録は、学生が「教務情報ポータルシステム」で、「履修登録期間」に「履修科目の登録」を行う。（「教務情報ポータルシステム」により登録されていない授業科目の単位は認められない。）
「履修科目の登録」期間は、教務情報ポータル上で掲示するので掲示を見落とさないこと。

③ 履修登録の確認：履修科目が正しく登録されたかどうかの確認を行う。履修登録確認期間は教務情報ポータル上に掲示するので掲示を見落とさないこと。履修科目が未登録であったり、誤りのまま履修を続けていると、成績認定の際にトラブルが生じ、単位が認められない恐れがあるので注意すること。

④ 授業を欠席する（した）場合：授業を欠席することが事前に分かっている場合は、授業時などに授業担当教員にその旨直接連絡すること。「やむを得ない事情」により授業を欠席した場合には、補講または履修上不利とならないよう、当該授業に相当する学修を課すことで「当該授業を出席したもの」とみなすことができる。学生は、「やむを得ない事情」により授業を欠席する場合は、速やかに各授業担当教員へその旨を連絡すると共に、学務グループに連絡し根拠資料（本紙）を提出すること。また、複写した同根拠資料を各授業担当教員に提出すること。

「やむを得ない事情」とは、次のような場合である。

- (1) 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）18条に規定する感染症に罹患した場合
- (2) 忌引き
- (3) 公共交通機関の運行停止
- (4) 裁判員制度

これ以外の事情がある場合は、授業担当教員の判断によることとする。

7 試験及び成績評価

履修科目の単位の授与は、試験その他の方法によって授業科目の担当教員が行う。（研究科規程第12条）授業科目の試験又は研究報告書等の成績評価は、100点をもって満点とし、A+（90点以上）、A（80点以上90点未満）、B（70点以上80点未満）、C（60点以上70点未満）及びD（60点未満）の評語で表し、A+、A、B及びCを合格とする。（同13条）。

その評価基準は表の通りである。各授業科目の評価方法は、「**教務情報ポータルシステム**」のシラバスの「成績の評価方法」欄を参照すること。

前学期の科目は9月上旬、後学期の科目は年度末に学生各自が「**教務情報ポータルシステム**」から成績一覧を確認すること。

区分	点数	評価の内容
A+	90～100	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80～89	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70～79	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60～69	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	0～59	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

以上A+～Dの評価の他に、「欠試」がある。試験欠席又は報告書未提出の場合は「欠試」となる。授業の出席時数が総授業数の3分の2に達しない場合は、試験を受けても単位は認定されずD評価となる。期末試験の受験資格を有する者が、次に掲げる事情により期末試験を受けることができなかった場合は、期末試験終了の翌日から1週間以内に、学務グループに願い出て、事情を証明する書類を提出することで追試験を受けることができる。

- (1) 学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）18条に規定する感染症に罹患した場合
- (2) 忌引き
- (3) 公共交通機関の運行停止
- (4) 裁判員制度
- (5) その他やむを得ない事情があると判断したもの

詳細については学務グループに確認すること。一度単位が認定された評価は再履修しても変更できない。D評価、欠試の場合は再履修ができる。単位累加可の授業以外は、既に単位が認定された授業を再履修しても単位は認定されない。成績に関して疑義がある場合には次のとおり問合せ等を行うことができる。

1) 成績評価に関する問合せ

成績評価について疑義のある場合は、「成績評価に関する確認書」により教育学部学務グループを通じて問い合わせること。

学生からの問合せに対して授業開講研究科は原則として15日以内（土日、祝日を除く。）に「成績評価に関する確認書」により回答を提出することとなっているので、回答を受け取りに来ること。

上記の問合せの期限は、当該授業科目が開講された学期の次の学期開始後20日以内（土日、祝日を除く。）である。休学又は留学のため問合せを行うことができない場合は、復学又は帰国後20日以内（土日、祝日を除く。）が問合せの期限となる。

ただし、最終年次の問合せの期限については、教育学部学務グループで確認すること。

当該授業が開講された学期中に成績報告がされていない授業の問合せ期限等については、成績評価が公開された日から20日以内(土日、祝日を除く。)が問合せの期限となる。

2) 成績評価に対する異議申し立て

上記1)の成績評価に関する問合せをした学生は、次の①～③のいずれかに該当する場合に限り、成績評価に対する異議を申し立てることができる。

- ①授業担当教員の成績評価の誤記入等が疑われる場合
- ②シラバスに記載された到達目標及び成績評価方法に照らして、評価に疑義がある場合
- ③授業担当教員の不誠実対応等により上記1)の期限までに回答がない場合。

成績評価に対する異議申し立てをする学生は、教育学部学務グループに申し出ること。

成績評価に対する異議申し立ての期限は、上記1)の問合せに対する授業開講研究科からの説明又は回答を受けた日から10日以内(土日、祝日を除く。)となる。ただし、③の場合には、上記1)の問合せをしてから15日以内(土日、祝日を除く。)が申し立ての期限となる。

成績評価に対する異議申し立てがなされた場合に、教育学研究科専門委員会において学生及び授業を担当する教員双方から事情及び意見を聴取するとともに、根拠資料の提出を求める。その上でどちらの主張に妥当性があるかを判断する。

8 修了要件と学位

研究科に2年以上在学し、研究科指定の科目について48単位以上修得することとする。(研究科規程第14条参照)

大学院の課程を修了した者には、教職修士(専門職)が与えられる(大学院学則第23条)。在籍期間については3年と例外的制度がある(研究科規程第10条)。

9 教員免許状について

本専攻において、授業科目のうちから24単位以上の所定の単位を修得した者は、以下の専修免許状授与の所要資格(以下「授与資格」という。)を得ることができる。

ただし、専修免許状の授与資格を得ることができる者は、すでに当該免許の一種免許状を授与されている者(授与資格を得ている者を含む。)に限られる。

コース名	免許状の種類	教科
学校運営コース 教育方法開発コース 児童生徒支援コース	幼稚園教諭専修免許状	
	小学校教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業指導、英語
	高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、家庭、工業、情報、職業指導、英語

	養護教諭専修免許状	
教科領域コース	小学校教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	※下記別表を参照
	高等学校教諭専修免許状	
特別支援科学コース	小学校教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語
	特別支援学校教諭専修免許状	
養護科学コース	養護教諭専修免許状	
	中学校教諭専修免許状	保健
	高等学校教諭専修免許状	保健

別表		免許状の種類	
		中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
コース名	教科名	教 科	
教科領域コース	国語	国語	国語、書道
	社会	社会	地理歴史、公民
	数学	数学	数学
	理科	理科	理科
	音楽	音楽	音楽
	美術	美術	美術
	保健体育	保健体育	保健体育
	技術	技術	工業、情報
	家庭	家庭	家庭
	英語	英語	英語

10 1年間に履修可能な単位数

茨城大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻における1年間に履修可能な単位数は、44単位を上限とする。ただし、修了要件外の授業科目及び集中講義は上限単位数に含まれないものとする。

11 実践研究報告書の作成について

教育学研究科では2年次に教育実践に資する研究成果が論述された実践研究報告書（以下、報告書）を作成することとしている。なお、報告書の作成においては、通常の授業のように学修の時間は定められていない。報告書の提出日は1月31日（提出期限が土・日曜日にあたる場合は次の休業日とする）までとし、現職派遣教員については提出期限を提出日の属する週の金曜日までとする。また、報告書とは別に抄録を作成し、大学院HPに掲載する（抄録の提出日は掲示等で別途示す）。

12 学生相談の体制

学生が学修、経済、進路、人間関係、その他各種困難な事態に直面した場合は、コース主任、専門委員に相談されたい。また、専攻を超えた研究科全体としての相談窓口も設けているので、そちらへ相談したい場合は、学務グループの相談受付窓口に応じ出ること。秘密は厳守される。

1 3 奨学金・授業料免除・奨学金返還免除

日本学生支援機構の奨学金貸与や授業料免除を希望する学生は、年度当初に募集要項を配布しているので所定の窓口に取りに行くこと。また、日本学生支援機構の奨学金貸与を受けた者のうち、特に優れた業績をあげた者を奨学金返還免除候補者として大学が推薦する制度がある。推薦を希望する者には奨学金貸与終了年度の12月頃に申請書を配布するが、貸与開始時から条件に合うように留意すること。

1 4 地域志向教育について

茨城大学は平成27年度から学士課程と大学院（博士前期課程）において、地域を多角的に捉えながら地域課題等と向き合う、地域志向教育を行っている。

大学院についてはプログラム化せずに、地域にかかわる科目（地域志向教育科目）を履修したい大学院生が任意に履修することになる。

これに該当する科目には、シラバスに「地域志向教育科目」という表記がある。またこれに関連する科目には「地域活性化志向」という記載がある。これらの授業科目は修了要件上必修とするものではないが、地域にかかわる内容の学修に興味のある学生は履修を推奨する。

Ⅱ 実習科目

概 要

1. 実習科目

(1) 実習科目の種類と単位、実習計画

教職大学院における実習では、実習校等との連携を密にしながら、それぞれのコースの課題に基づいて様々な実習科目が用意されている。いずれのコースも合計10単位の実習科目の単位取得が義務づけられている。実習科目には、各コースの専門性に応じた実習科目（コース別実習）と、コース間で協働して取り組む実習科目（コース間融合実習）が設けられている。

コース別実習

【学校運営コース】

本コースの全ての学生は、1年次後期に「学校運営開発実習Ⅰ」（3単位）、2年次に「学校運営開発実習Ⅱ」（5単位）を履修する。

【教育方法開発コース】

本コースの全ての学生は、1年次後期に「教育方法開発実習Ⅰ」（3単位）、2年次に「教育方法開発実習Ⅱ」（5単位）を履修する。

【児童生徒支援コース】

本コースの全ての学生は、1年次後期に「児童生徒支援実習」（3単位）、2年次前期に「学校適応アセスメント実習」（3単位）、2年次後期に「学校適応支援実習」（2単位）を履修する。

【教科領域コース】

本コースの全ての学生は、1年次通年で「教科領域実習Ⅰ」（3単位）を履修する。さらに、学部新卒者等は2年次前期に「教科領域実習Ⅱ」（3単位）、現職教員は2年次通年で「教科領域実習Ⅲ」（5単位）を履修する。

【特別支援科学コース】

本コースの全ての学生は、1年次通年で「特別支援教育ケース・カンファレンス実習Ⅰ」（1単位）、1年次前期に「特別支援教育教材開発実習Ⅰ」（1単位）、1年次後期に「特別支援教育アセスメント実習Ⅰ」（1単位）を履修する。さらに、学部新卒者等は2年次通年で「特別支援教育ケース・カンファレンス実習Ⅱ」（1単位）、2年次前期に「特別支援教育教材開発実習Ⅱ」（1単位）、2年次後期に「特別支援教育アセスメント実習Ⅱ」（1単位）

を履修する。現職教員は2年次通年で「特別支援教育授業改善実習」（5単位）を履修する。

【養護科学コース】

本コースの全ての学生は、1年次通年で「養護科学実習Ⅰ」（2単位）、1年次後期に「養護科学実習Ⅳ」（2単位）を履修する。さらに、学部新卒者等は2年次通年で「養護科学実習Ⅱ」（4単位）、現職教員は2年次通年で「養護科学実習Ⅲ」（4単位）を履修する。

コース間融合実習

【学校運営コース・教育方法開発コース・児童生徒支援コース】

上記コースの全ての学生は、1年次前期に「課題発見実習」（2単位）を履修する。

【教科領域コース・特別支援科学コース・養護科学コース】

上記コースの全ての学生は、1年次前期に教材開発実習ⅠA（1単位）、教材開発実習ⅠB（1単位）、子どもと大人への一次救命処置実習（1単位）の中から2単位を選択履修する。さらに、学部新卒者等は2年次前期に教材開発実習ⅡA（1単位）、教材開発実習ⅡB（1単位）を履修する。

※それぞれの実習科目の概要、実習計画の詳細については、「実習の手引き」を参照のこと。

（2）大学院専門委員会（実習部門）と実習校

実習科目の計画や運営は、大学院専門委員会（実習部門）が行い、実際の実習指導は附属学校園、連携協力校、施設、現職教員の場合は現任校（所属校）において行われる。これらに関わる事務処理、届け出の窓口は「教育学部学務グループ」が担当している。

2. 実習科目の履修方法

（1）実習の指導体制

実習の実施にあたっては、事前にオリエンテーション等によって、実習の概要や実施にあたっての諸注意などの指導を受ける。

大学側は大学指導教員が実習校等と緊密な関係を取りながら相互補完的に協力して実習指導にあたる。実習校等では、実習監督者（校長等）、実習連絡者（大学指導教員と連絡業務が可能な者、例えば、学校の場合は教頭や教務主任等）、実習支援者（実習現場において直接的な支援を行う者）からなる指導体制が組織されている。

（２）保険加入と健康診断の受診

授業の特質上、履修に際して保険加入を義務づける。具体的な手続についてはオリエンテーションで説明する。

３．実習科目における履修態度

（１）「子どもへの直接働きかけ」「勤務」「社会参加」としての実習

学校における実習は、成長中の子どもたちの活動に直接働きかけるものである。教育活動を自身で実施しながら、その実地体験に基づきながら学習を行うという、通常の講義等の科目とは異なる特質を備えた授業科目である。したがって、履修者には、いっそう誠実で、自覚的な履修態度が求められる。

ついては、実習先における履修者の不適切な態度・行動が見受けられる場合は、「履修取りやめ」を指示することがある。また、やむを得ない理由がない限り、自己の都合で「履修取りやめ」を認めることもできない。

（２）履修中の報告義務

実習科目の履修中に実習校等において何らかの問題が生じたときには、直ちに「教育学部学務グループ／電話 ０２９－２２８－８２０８」へ連絡を取ること。

※実習科目における履修態度に関しては、別冊子「実習の手引き」における「実習生の心得」ほか、十分に通読したうえで実習に臨むこと。

４．実習科目の評価

評価は、５段階で評価し、A+（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）とし、A+、A、BおよびCを合格とする。

・実習の評価と単位認定は、実習科目ごとの指導目標に基づいた実習評価票をもとに行う。

※評価項目内容の詳細は、「実習の手引き」を参照のこと。

Ⅲ 規則

茨城大学大学院教育学研究科規程

昭和 63 年 3 月 29 日

制 定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人茨城大学組織規則(平成 16 年規則第 1 号)第 20 条第 4 項並びに茨城大学大学院学則(昭和 43 年 5 月 1 日制定。以下「大学院学則」という。)第 4 条第 2 項及び第 14 条第 3 項の規定に基づき、茨城大学大学院教育学研究科(以下「研究科」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 研究科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

- (1) 多様な子どもを深く理解し、すべての子どもの力を伸ばす高い実践力を有する教員を養成すること。
- (2) 社会や地域の教育課題を理論的に追究し、学校内外の人々と協働して解決に取り組むことができる教員を養成すること。

(構成)

第 3 条 研究科の専攻に次のコースを置く。

教育実践高度化専攻	学校運営コース
	教育方法開発コース
	児童生徒支援コース
	教科領域コース
	特別支援科学コース
	養護科学コース

2 各コースにおける人材養成上の目的は、別表 1 のとおりとする。

(指導教員等)

第 4 条

学生の授業科目の履修の指導のために、指導教員及び副指導教員を置く。

(単位の計算方法)

第 5 条 大学院学則第 15 条の 2 の規定に基づき、研究科が開設する授業科目の 1 単位当たりの授業時間は、次の各号に掲げる授業方法に応じて、当該各号の時間によるものとする。

- (1) 講義及び演習 15 時間
- (2) 実験、実習および実技 30 時間

2 前項の規定にかかわらず、必要があると認める場合には、研究科が開設する個別の授業科目について、大学院学則第 15 条の 2 の規定により準用する茨城大学学則第 32 条第 1 項に規定する時間の範囲内で、1 単位当たりの授業時間を別に定めることができる。

(授業科目)

第 6 条 研究科共通科目の授業科目及び単位数は、別表 2 のとおりとする。

2 専門科目の授業科目及び単位数は、別表 3 のとおりとする。

(履修方法)

第 7 条 学生は、履修しようとする授業科目を学年又は学期の始めにその科目を担当する教員の承諾を得て、研究科長に届け出なければならない。

2 履修方法は、別表 3 備考欄に定めるところによるものとする。

第 8 条 研究科に所属する学生が 1 年間に履修登録することができる単位数の上限は、44 単位とする。

第 9 条 学生は、指導教員が必要と認めるときは、他の研究科の授業科目を当該研究科長の裁可を得て、履修することができる。

(教育方法の特例)

第 10 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(長期履修学生)

第 11 条 学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを願い出たときは、本研究科委員会の審議を経て許可することがある。

2 前項の規定により計画的な履修を許可された者(以下「長期履修学生」という。)が、当該在学期間について短縮することを願い出たときは、本研究科委員会の審議を経て許可することがある。

3 前 2 項に定めるもののほか、長期履修学生の取り扱いに関し必要な事項は、本研究科委員会が別に定める。

(単位の授与及び試験)

第 12 条 履修科目の単位の授与は、試験その他の方法によって授業科目担当教員が行う。

2 病気等やむを得ない事情で期末試験を受けることができなかった者に対しては、願い出により追試験を認めることができる。

(成績の評価)

第 13 条 授業科目の試験又は研究報告書等の成績評価は、100 点をもって満点とし、A+(90 点以上)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)及び D(60 点未満)の評語で表し、A+、A、B 及び C を合格とする。

(課程修了の要件)

第 14 条

修了の要件は、研究科に 2 年以上在学し、研究科所定の科目について 48 単位以上修得することとする。

(教員免許取得プログラム)

第 15 条 研究科に教員免許を取得させることを目的とした教員免許取得プログラムを置き、教員免許取得プログラムの受講を許可された学生は、第 7 条第 2 項の規定にかかわらず、教育学部の教職課程の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定に基づき修得した単位は、前条に規定する修了要件の単位数に含めることはできない。

3 教員免許取得プログラムに関し必要な事項は、本研究科委員会が別に定める。

(雑則)

第 16 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項については、研究科委員会が定める。

別表 1

(1) 学校運営コース

学校運営コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・子どもを深く理解する力

子どもたちの有する問題状況を把握し、支援するための組織として課題解決を遂行するリーダーシップを発揮できる。

- ・広い視野

教育政策を踏まえたうえで学校に必要となる課題解決のための道筋を明示し、その進むべき方向性を明らかにする学校ビジョンを形成できる。

- ・深い専門性

学校内外において様々な課題解決を進めることができるリーダーシップを発揮するために、これを根底において支える学校マネジメントの本質的な理解を深めることにより、学校づくりに活かすことができる。

(2) 教育方法開発コース

教育方法開発コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・子どもを深く理解する力

児童生徒の学力・学習状況を理解するとともに、各教科等の授業における学びの側面からだけでなく、教育活動全体を通して一人ひとりの児童生徒の多面的・継続的な理解を図り、個に即した指導・支援を構想・実践し、自身の子どもの見方をとらえ直し改善していくことができる。

- ・広い視野

今日及びこれからの社会の在り方を理解し、学級経営や生徒指導における課題を含めた児童生徒の人間形成上、学力・学習上の課題を踏まえて、授業実践の今日的課題と目指す授業像を明確化できる。

- ・深い専門性

児童生徒の実態に基づいて、思考を深める発問、効果的な対話の場の設定、育てたい力に即した学習評価の方法、個の学びの見とりと支援の工夫等を図り、効果的な単元・授

業を構想・展開するとともに、子どもの学びを多面的・具体的に把握することを通して、授業の成果と課題を省察し、改善を図ることができる。

(3) 児童生徒支援コース

児童生徒支援コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・ 子どもを深く理解する力

児童生徒の問題行動にはどのようなものがあり、どのような心理的な背景が想定されるかといったことを、目の前の現象の中から推測し対応できる。

- ・ 広い視野

家庭、地域、関係諸機関において行われている支援や学校での様々な支援のありようを理解し、チームとして連携しながら支援できる。

- ・ 深い専門性

心理学やカウンセリングの理論や技法への理解を深めることにより、成長促進的な支援力を身に付け、それらを学級経営や授業に活用して、個に応じた支援ができる。

(4) 教科領域コース

教科領域コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・ 子どもを深く理解する力

教科指導の基礎となる多様な児童生徒の実態を根拠に基づき分析できる。

- ・ 広い視野

教科・分野横断的な視点を踏まえた教材開発と授業展開ができる。

- ・ 深い専門性

各教科がベースにもつそれぞれの学問についての深い専門性を身に付け、それを授業づくりに活かすとともに、校内や地区の教科に関わる教育研究を主導できる。

(5) 特別支援科学コース

特別支援科学コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・ 子どもを深く理解する力

アセスメントを実施し、その情報を根拠にして子どもの実態を分析できる。

- ・ 広い視野

教科・分野横断的な視点を踏まえた特別支援教育における教材開発と授業展開ができる。

- ・ 深い専門性

特別支援教育の現場を活用し、教材を開発し、それを授業づくりに活かすとともに、校内や地区の特別支援教育に関わる教育研究をリードできる。

(6) 養護科学コース

養護科学コースは次のような能力を有する教員を養成することを目的とする。

- ・ 子どもを深く理解する力

養護教諭という専門的視点を軸に視野の広がりや連携的視点を持ち児童生徒の心身の

健康状態を分析し支援できる。

・ 広い視野

多職種と連携しながら子どもの心身の健康を総合的に思考・判断し支援できる。

・ 深い専門性

専門的知識に裏付けされた子どもたちの主体的健康管理能力と多面的な発達を促し生涯にわたる子どもたちの心身の健康を支援できる。

附 則

1 この規程は、令和7年4月1日から施行する。

別表2

※■必修 □選択

科目区分	科目名	単位	学校運営	教育方法開発	児童生徒支援	教科領域	特別支援科学	養護科学
共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ・Ⅱ	各1	■	■	■	■	■	■
	ICT活用とプログラミング	2	□	□	□	□	□	□
	子ども理解にもとづく学習指導	2	■	■	■			
	授業研究の方法と実践	2	■	■	■			
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(言語・社会・生活科学系)	2				□	□	□
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(自然・科学技術系)	2				□	□	□
	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(芸術・スポーツ系)	2				□	□	□
	特別支援教育の自立活動の授業づくり	2				□	■	□
	心とからだの発達と保健	2				□	□	■
	発達障害児の理解と支援	2	■	■	■	■	■	■
	教育相談の課題と支援	2	■	■	■			
	子どもの健康と生徒指導	2				■	■	■
	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	2				□	■	□
	インクルーシブ教育の学校づくり	2	□	□	□	□	■	□
	学校マネジメント実践演習	2	■	■	■			
	学級経営実践演習	2	■	■	■			
	学級力を高めるコミュニケーション	2				□	□	□
	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	2	■	■	■	■	■	■
	教師のライフステージと資質向上	2	■	■	■			
	学校における多様性の受容と活用	2				□	□	□
	校内研修の企画・立案と実践	2	■	■	■			
	教育測定(評価)と校内研修	2				■	■	■

別表3

科目 区分	授業科目の名称	単 位	学校 運営	教育 方法 開発	児童 生徒 支援	教科 領域	特別 支援 科学	養護 科学
専門科目 クロス別科目	教育政策の実施と評価	2	■					
	教育行財政と法規	2	■					
	スクール・リーダーシップとその実践	2	■					
	学校危機管理論と実践演習	2	■					
	学校における評価マネジメント実践演習	2	■					
	学校運営課題研究Ⅰ	1	■					
	学校運営課題研究Ⅱ	1	■					
	学校運営課題研究Ⅲ	1	■					
	学校運営課題研究Ⅳ	1	■					
	学校運営実践研究Ⅰ	1	■					
	学校運営実践研究Ⅱ	1	■					
	教材研究と授業設計	2		■				
	人間形成の現代的課題と学習指導	2		■				
	授業研究による授業改善	2		■				
	教育方法開発課題研究Ⅰ	1		■				
	教育方法開発課題研究Ⅱ	1		■				
	教育方法開発課題研究Ⅲ	1		■				
	教育方法開発課題研究Ⅳ	1		■				
	教育方法開発実践研究Ⅰ	1		■				
	教育方法開発実践研究Ⅱ	1		■				
	学校不応問題への理解と対応	2			■			
	学級経営と個別指導の実践	2			■			
	学級集団づくりとソーシャルスキルの実践法	2			■			
	児童生徒支援課題研究Ⅰ	1			■			
	児童生徒支援課題研究Ⅱ	1			■			
	児童生徒支援課題研究Ⅲ	1			■			
	児童生徒支援課題研究Ⅳ	1			■			
	児童生徒支援実践研究Ⅰ	1			■			
	児童生徒支援実践研究Ⅱ	1			■			

専門科目	コース別科目	国語科内容総合研究	2			☐		
		国語科科目研究（国語学・書写書道）	2			☐		
		国語科科目研究（国文学・漢文学）	2			☐		
		国語科総合演習Ⅰ	2			☐		
		国語科総合演習Ⅱ	2			☐		
		社会科内容総合研究	2			☐		
		社会科科目研究（歴史）	2			☐		
		社会科科目研究（地理）	2			☐		
		社会科科目研究（社会と人間）	2			☐		
		社会科科目研究（法律と政治）	2			☐		
		社会科総合演習ⅠA	2			☐		
		社会科総合演習ⅠB	2			☐		
		社会科総合演習ⅡA	2			☐		
		社会科総合演習ⅡB	2			☐		
		算数科内容総合研究	2			☐		
		数学科科目研究（代数学・幾何学）	2			☐		
		数学科科目研究（解析学・統計学）	2			☐		
		数学科総合演習Ⅰ	2			☐		
		数学科総合演習Ⅱ	2			☐		
		理科内容総合研究	2			☐		
		理科科目研究（エネルギー・粒子）	2			☐		
		理科科目研究（生命・地球）	2			☐		
		理科総合演習Ⅰ	2			☐		
		理科総合演習Ⅱ	2			☐		
		音楽科内容総合研究	2			☐		
		音楽科科目研究（表現）	2			☐		
		音楽科科目研究（鑑賞）	2			☐		
		音楽科総合演習Ⅰ	2			☐		
		音楽科総合演習Ⅱ	2			☐		
		図画工作科内容総合研究	2			☐		
		美術科科目研究（絵画・彫刻）	2			☐		

専門科目	コース別科目	美術科科目研究（デザイン・工芸）	2				☐		
		美術科総合演習Ⅰ	2				☐		
		美術科総合演習Ⅱ	2				☐		
		体育科内容総合研究	2				☐		
		保健体育科科目研究（保健・体育学）	2				☐		
		保健体育科科目研究（運動学）	2				☐		
		保健体育科総合演習Ⅰ	2				☐		
		保健体育科総合演習Ⅱ	2				☐		
		技術科内容総合研究	2				☐		
		技術科科目研究（材料と加工・生物育成）	2				☐		
		技術科科目研究（エネルギー変換・情報）	2				☐		
		技術科総合演習Ⅰ	2				☐		
		技術科総合演習Ⅱ	2				☐		
		家庭科内容総合研究	2				☐		
		家庭科科目研究（人間生活分野）	2				☐		
		家庭科科目研究（生活環境分野）	2				☐		
		家庭科総合演習Ⅰ	2				☐		
		家庭科総合演習Ⅱ	2				☐		
		英語科内容総合研究	2				☐		
		英語科科目研究（英語学）	2				☐		
		英語科科目研究（英語文学）	2				☐		
		英語科総合演習Ⅰ	2				☐		
		英語科総合演習Ⅱ	2				☐		
		特別支援学校の教材開発	2					☐	
		特別支援学校の授業づくり	2					☐	
		感覚障害児のアセスメントと支援	2					☐	
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	2					☐	

		知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	2					☐	
		障害児の生理機能評価と支援	2					☐	
		特別支援教育課題発見演習	2					■	
		特別支援教育課題分析演習	2					■	
		特別支援教育課題解決演習	2					■	
		特別支援教育総合演習	2					■	
		健康科学と社会創造	2						■
		学校における医学・看護学	2						■
		養護活動と健康増進科学	2						■
		臨床医学特論	2						■
		養護科学課題発見演習	2						■
		養護科学課題分析演習	2						■
		養護科学課題解決演習	2						■
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	2	■	☐	☐			
		学習指導・学習評価の課題と方法	2	☐	■	☐			
		教育カウンセリング実践と事例研究	2	☐	☐	■			
		教育臨床問題と道徳	2		■	■			
		子ども理解と学習支援	2		■	■			
		ことばの諸相と教育	2				☐	☐	☐
		社会の数理	2				☐	☐	☐
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	2				☐	☐	☐
		時間と空間の表現世界	2				☐	☐	☐
		読み・書き・計算のつまずきと支援	2				☐	☐	☐
		動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	2				☐	☐	☐
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ	2				☐	☐	☐
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ	2				☐	☐	☐
		防災を含む安全に関する教育	2				☐	☐	☐

		持続可能な開発目標 (SDGs) を学ぶ	2				☐	☐	☐
		教育現場における生成 AI の活用方法	2				☐	☐	☐
		課題探索演習	2				☒	☒	☒
実習科目	コース別実習	学校運営開発実習Ⅰ	3	☒					
		学校運営開発実習Ⅱ	5	☒					
		教育方法開発実習Ⅰ	3		☒				
		教育方法開発実習Ⅱ	5		☒				
		児童生徒支援実習	3			☒			
		学校適応アセスメント実習	3			☒			
		学校適応支援実習	2			☒			
		教科領域実習Ⅰ	3				☒		
		教科領域実習Ⅱ	3				☐		
		教科領域実習Ⅲ	5				☐		
		特別支援教育教材開発実習Ⅰ	1					☒	
		特別支援教育教材開発実習Ⅱ	1					☐	
		特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	1					☒	
		特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	1					☐	
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	1					☒	
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	1					☐	
		特別支援教育授業改善実習	5					☐	
		養護科学実習Ⅰ	2						☒
		養護科学実習Ⅱ	4						☐
		養護科学実習Ⅲ	4						☐
		養護科学実習Ⅳ	2						☒
	コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	2	☒					
		課題発見実習(教育方法開発コース)	2		☒				
		課題発見実習(児童生徒支援コース)	2			☒			

実習科目	教材開発実習 I A（教科領域コース）	1				☐		
	教材開発実習 I A（特別支援科学コース）	1					☐	
	教材開発実習 I A（養護科学コース）	1						☐
	教材開発実習 II A（教科領域コース）	1				☐		
	教材開発実習 II A（特別支援科学コース）	1					☐	
	教材開発実習 I B（教科領域コース）	1				☐		
	教材開発実習 I B（特別支援科学コース）	1					☐	
	教材開発実習 I B（養護科学コース）	1						☐
	教材開発実習 II B（教科領域コース）	1				☐		
	教材開発実習 II B（特別支援科学コース）	1					☐	
	子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）	1				☐		
	子どもと大人への一次救命処置実習（特別支援科学コース）	1					☐	
	子どもと大人への一次救命処置実習（養護科学コース）	1						☐
備考	【学校運営コース】							
	イ 必修科目							
	○共通科目■（20 単位）							
	○コース別科目（16 単位）							
	○コース間融合科目■（2 単位）							
	○コース別実習（8 単位）							
	○コース間融合実習（2 単位）							
	計 48 単位							

備考	【教育方法開発コース】
	イ 必修科目
	○共通科目■ (20 単位)
	○コース別科目 (12 単位)
	○コース間融合科目■ (6 単位)
	○コース別実習 (8 単位)
	○コース間融合実習 (2 単位)
	計 48 単位
	【児童生徒支援コース】
	イ 必修科目
	○共通科目■ (20 単位)
	○コース別科目 (12 単位)
	○コース間融合科目■ (6 単位)
	○コース別実習 (8 単位)
	○コース間融合実習 (2 単位)
	計 48 単位
	【教科領域コース】
	イ 必修科目
	○共通科目■ (10 単位)
	○コース間融合科目■ (2 単位)
	○コース別実習■ (3 単位)
	○コース間融合実習■ (2 単位)
	ロ 選択科目
	○共通科目□ (8 単位)
	○専門科目□ (18 単位)
	○実習科目□ (5 単位)
	(実習科目 コース間融合実習から学部新卒学生は 4 単位、 現職教員学生は 2 単位)
	計 48 単位
	【特別支援科学コース】
	イ 必修科目
	○共通科目■ (16 単位)
	○コース別科目■ (8 単位)
	○コース間融合科目■ (2 単位)
	○コース別実習■ (3 単位)
	ロ 選択科目

○共通科目□（2 単位）
○専門科目□（12 単位）
○実習科目□（7 単位）
（実習科目 コース間融合実習から学部新卒学生は 4 単位、現職教員学生は 2 単位）
計 48 単位
【養護科学コース】
イ 必修科目
○共通科目■（12 単位）
○コース別科目（14 単位）
○コース間融合科目■（2 単位）
○コース別実習■（4 単位）
ロ 選択科目
○共通科目□（6 単位）
○専門科目□（4 単位）
○実習科目□（6 単位）
計 48 単位

サステナビリティ学教育プログラムの履修について

I 趣旨

環境問題やエネルギー・資源の不足、水・食料の逼迫、人口問題などを解決して、社会の持続可能性（サステナビリティ）をいかに確保するかは、現代の大きな課題になっています。本プログラムは、基盤科目や海外及び国内での現場演習を通して、これらの問題を把握する俯瞰的視点と専門分野の知識をつなぐ分野横断的な勉学の機会を提供します。

II 「サステナビリティ学教育プログラム」科目一覧

区分		科目名	単位	必要単位数
俯瞰型科目	基盤科目	サステナビリティ学最前線 (Frontiers of sustainability science)	2	基盤科目から 3 以上
		地球環境システム論 I	1	
		地球環境システム論 II	1	
		持続社会システム論 I	1	
		持続社会システム論 II	1	
		人間システム基礎論 I	1	
		人間システム基礎論 II	1	
		Climate change and sustainability science	1■	
	コア科目	国際実践教育演習	2	コア科目から 3 以上
		国内実践教育演習	2	
		ファシリテーション能力開発演習 I	1	
		ファシリテーション能力開発演習 II	1	
専門科目	教育学研究科専門科目	教師のライフステージと資質向上	2●	専門科目内から 1 以上
		学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	2●	
		校内研修の企画・立案と実践	2●	
		インクルーシブ教育の学校づくり	2●	
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践 I・II	各 1●	
		持続可能な開発目標 (SDGs) を学ぶ	2●	
		茨城に学ぶ・地域における教員の在り方 I・II	各 2●	
		読み・書き・計算のつまずきと支援	2●	
		防災を含む安全に関する教育	2●	
		学級力を高めるコミュニケーション	2●	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (言語・社会・生活科学系)	2●	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (自然・科学技術系)	2●	
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり (芸術・スポーツ系)	2●	
		教育測定 (評価) と校内研修	2●	
		Changing atmosphere and climate change	1■	
		Mitigation strategy for climate change	1■	
		Adaptation strategy to climate change	1■	
		Climate policy, SDGs and social resilience	1■	

(●) ●印を付した科目のみ課程修了要件としてカウントされる。それ以外は課程修了要件にならないので注意すること。

(■) ■印を付した科目は、オンデマンド講義形式で開講。

III プログラムの修了要件

基盤科目から 3 単位以上、コア科目から 3 単位以上及び専門科目から 1 単位以上を修得し、計 10 単位以上修得すること。

IV 履修上の注意

- 1 俯瞰型科目は、スチューデントサクセスセンター及び地球・地域環境共創機構 (GLEC) の協力の下で開講する科目です。
- 2 科目名が英語記載されている科目は原則英語を用いますが、日本語での学習支援も行います。
- 3 「国際実践教育演習」及び「国内実践教育演習」を履修する場合は、「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」に加入していることを確認し、担当教員の指示に従ってください。
- 4 このプログラムの履修を希望する者は、指導教員と相談し了解を得たうえで、サステイナビリティ学教育プログラムホームページ (<https://www.glec.ibaraki.ac.jp/gpss/>) より履修届を提出してください。
- 5 所定の修了要件を満たした学生には、茨城大学長名で「茨城大学大学院サステイナビリティ学教育プログラム修了認定証」が与えられます。
- 6 以下の SSC 共同教育プログラムの修了要件を満たした場合、「サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム (SSC) 共同教育プログラム修了認定証」が併せて授与されます。
(SSC 共同教育プログラム修了要件)
プログラムの修了要件は以下をすべて満たすものとする。
 - ① 「サステイナビリティ学最前線」(2単位)を取得すること
 - ② II「サステイナビリティ学教育プログラム」科目一覧で指定する「俯瞰型科目(「サステイナビリティ学最前線」を除く)」を4単位以上取得すること
 - ③ II「サステイナビリティ学教育プログラム」科目一覧で指定する専門科目と上記①、②をあわせ合計10単位取得すること

【参考】

(1) サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム: SSC (Sustainability Science Consortium)

SSC は、サステイナビリティ・サイエンスの視点に立脚した教育による新しい人材の育成や、企業・行政・一般市民への普及啓発や実践活動の展開を推進支援することを目的として、幅広い活動に取り組む一般社団法人です。「サステイナビリティ学最前線」は東京大学、大阪大学、茨城大学などの SSC 参加大学で共同開講されています。

URL: <http://ssc-g.net/>

(2) 地球・地域環境共創機構: GLEC (Global and Local Environment Co-creation Institute)

GLEC は環境問題の解決を目指し、持続的な環境の共創に関する教育研究や社会連携の機能の強化を図る、茨城大学の教育研究拠点です。GLEC には茨城大学の全学部から教員が参加し、フィールド科学から予測・政策科学を含む総合的な研究を推進するとともに、サステイナビリティ学教育プログラムの実施でも中心的な役割を担っています。

URL: <https://www.glec.ibaraki.ac.jp/>

(3) 茨城大学大学院サステイナビリティ学教育プログラムホームページ

本プログラムの趣旨・概要などの他、関係授業科目の開講スケジュール・日程、授業に

関する最新情報が入手できます。履修の際には必ず目を通してください。

URL: <https://www.glec.ibaraki.ac.jp/gpss/>

(4) 茨城大学大学院サステナビリティ学教育プログラムに関する問い合わせ先

授業のことも含め、プログラムについての問い合わせは、GLEC 支援室までメールにてお送りください (Email: glec-edu@ml.ibaraki.ac.jp)。

IV 開講授業科目

(注)

授業科目一覧の専修区分に使用されている略字は以下を表す。

幼・・・幼稚園教諭専修免許状

小・・・小学校教諭専修免許状

中・・・中学校教諭専修免許状

高・・・高等学校教諭専修免許状

養護・・・養護教諭専修免許状

特別支援・・・特別支援学校教諭専修免許状

(基礎)・・・教育の基礎的理解に関する科目

(道徳)・・・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授 業 科 目 一 覧

(教育学研究科教育実践高度化専攻)

(教育学研究科教育実践高度化専攻)										※■必修 □選択						免許対応区分							備考	
科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目の名称	開講学期・クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学校運営	教育 開発 方法	児童 生徒 支援	教科 領域	特別 学支 援	養護 科学	科目 区分	幼	小	中	高	養 教	特別 支援		
共通科目	第1領域	P-EDU-6	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	1Q	月	3	P1	1	佐藤(環)・田崎	■	■	■	■	■	■	基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	前期	集中		P1	1	佐藤(環)・田崎・宮崎・木村・小口(祐)・阿部・秋葉・片口・渡邊(幹)・大西・石島・齋藤(英)・新井・瀧澤・竹下	■	■	■	■	■	■	基礎	○	○	○	○	○	-		
	第2領域	P-EDU-6	ICT活用とプログラミング	前期	金	4	P1	2	大西・松村(初)	□	□	□	□	□	□	道徳	-	○	○	○	○	-	-	
		P-EDU-6	子ども理解にもとづく学習指導	前期	木	4	P1	2	生越・打越	■	■	■				道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	授業研究の方法と実践	前期	火	2	P1	2	杉本	■	■	■				道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(言語・社会・生活科学系)	前期	木	2	P1	2	昌子・木村・野中・青田				□	□	□	道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(自然・科学技術系)	前期	木	2	P1	2	吉井・宮本(直)・野崎				□	□	□	道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	主体的・対話的で深い学びの授業づくり(芸術・スポーツ系)	前期	木	2	P1	2	秋葉・小口(あ)・吉野				□	□	□	道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	特別支援教育の自立活動の授業づくり	1Q	火	3.4	P1	2	新井				□	■	□	特支	-	-	-	-	-	○		
		P-EDU-6	心とからだの発達と保健	前期	木	1	P1	2	古池・布施・渡邊(雅)				□	□	■	基礎	○	○	○	○	○	-		
	第3領域	P-EDU-6	発達障害児の理解と支援	前期	月	1	P1	2	細川・石田	■	■	■	■	■	■	基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	教育相談の課題と支援	後期	金	2	P1	2	三輪・安	■	■	■				道徳	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	子どもの健康と生徒指導	後期	金	3	P1	2	瀧澤・石原・土方				■	■	■	道徳	-	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	前期	金	2	P1	2	石田				□	■	□	特支	-	-	-	-	-	○		
	第4領域	P-EDU-6	インクルーシブ教育の学校づくり	後期	木	1	P1	2	井口	□	□	□	□	■	□	特支	-	-	-	-	-	○		
		P-EDU-6	学校マネジメント実践演習	後期	金	4	P1	2	加藤・長谷川	■	■	■				基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	学級経営実践演習	前期	月	2	P1	2	安・渡部	■	■	■				基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	学級力を高めるコミュニケーション	前期	金	1	P1	2	鈴木(一)・内川				□	□	□	基礎	○	○	○	○	○	-		
	第5領域	P-EDU-6	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	前期	月	4	P1	2	今泉・加藤・鈴木(稔)・長谷川	■	■	■	■	■	■	基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	教師のライフステージと資質向上	前期	火	1	P1	2	坂本・長谷川	■	■	■				基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	学校における多様性の受容と活用	後期	木	2	P1	2	池庄司・佐藤(裕)・齋藤(英)				□	□	□	基礎	○	○	○	○	○	-		
	第6領域	P-EDU-6	校内研修の企画・立案と実践	後期	金	3	P1	2	加藤・長谷川・鈴木(稔)・高野	■	■	■				基礎	○	○	○	○	○	-		
		P-EDU-6	教育測定(評価)と校内研修	後期	月	2	P1	2	大西・松村(初)				■	■	■	道徳	○	○	○	○	○	-		

【学校運営コース】

※■必修 □選択

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目の名称	開講学期・クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学校運営	教育方法	児童支援	教科領域	特別学支援	養護科学	免許対応区分							備考
専門科目	コース別科目	P-EDU-7	教育政策の実施と評価	前期	木	2	P1	2	高野・鈴木（聡）	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育行財政と法規	後期	火	2	P1	2	高野・長谷川	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	スクール・リーダーシップとその実践	前期	木	3	P1	2	加藤・長谷川	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校危機管理理論と実践演習	後期	木	3	P1	2	高野・鈴木（聡）	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校における評価マネジメント実践演習	後期	木	2	P1	2	加藤・鈴木（聡）	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営課題研究Ⅰ	前期	木	5	P1	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営課題研究Ⅱ	後期	木	5	P1	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営課題研究Ⅲ	前期	木	5	P2	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営課題研究Ⅳ	後期	木	5	P2	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営実践研究Ⅰ	通年	集中		P1	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校運営実践研究Ⅱ	通年	集中		P2	1	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						基礎	○	○	○	○	○	-	
	コース間融合科目	P-EDU-7	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	前期	金	2	P1	2	五島・高野	■	□	□				基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学習指導・学習評価の課題と方法	前期	火	3	P1	2	杉本	□	■	□				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育カウンセリング実践と事例研究	後期	月	3	P1	2	三輪	□	□	■				道徳	○	○	○	○	○	-	
実習科目	コース別実習	P-EDU-7	学校運営開発実習Ⅰ	後期	集中		P1	3	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	学校運営開発実習Ⅱ	通年	集中		P2	5	加藤・鈴木（聡）・長谷川・高野	■						-	-	-	-	-	-	-	
	融合実習	P-EDU-7	課題発見実習(学校運営コース)	前期	集中		P1	2	鈴木（聡）・長谷川・加藤・打越・三輪・渡部・杉本・宮本（浩）・高野・佐藤（暁）・安	■						-	-	-	-	-	-	-	

【教育方法開発コース】

【教育方法開発コース】										※■必修 □選択						免許対応区分							
科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目の名称	開講学期・クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学校運営	教育方法	児童生徒支援	教科領域	特別学支援	養護科学	科目区分	幼	小	中	高	養教	特別支援	備考
専門科目	コース別科目	P-EDU-7	教材研究と授業設計	前期	木	2	P1	2	打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	人間形成の現代的課題と学習指導	前期	木	1	P1	2	生越・長谷川		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	授業研究による授業改善	後期	火	2	P1	2	打越・杉本		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発課題研究Ⅰ	前期	木	5	P1	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発課題研究Ⅱ	後期	木	5	P1	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発課題研究Ⅲ	前期	木	5	P2	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発課題研究Ⅳ	後期	木	5	P2	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発実践研究Ⅰ	通年	集中		P1	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育方法開発実践研究Ⅱ	通年	集中		P2	1	杉本・打越・宮本（浩）		■					道徳	○	○	○	○	○	-	
	コース間融合科目	P-EDU-7	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	前期	金	2	P1	2	五島・高野	■	□	□				基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学習指導・学習評価の課題と方法	前期	火	3	P1	2	杉本	□	■	□				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育カウンセリング実践と事例研究	後期	月	3	P1	2	三輪	□	□	■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育臨床問題と道徳	後期	木	2	P1	2	宮本（浩）・安		■	■				道徳	-	○	○	-	○	-	
		P-EDU-7	子ども理解と学習支援	後期	木	4	P1	2	渡部・打越・杉本・宮本（浩）・安		■	■				道徳	○	○	○	○	○	-	
実習科目	習コース別実	P-EDU-7	教育方法開発実習Ⅰ	後期	集中		P1	3	打越・杉本・宮本（浩）		■					-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教育方法開発実習Ⅱ	通年	集中		P2	5	打越・杉本・宮本（浩）		■					-	-	-	-	-	-	-	
	融合実習間	P-EDU-7	課題発見実習(教育方法開発コース)	前期	集中		P1	2	鈴木（聡）・長谷川・加藤・打越・三輪・渡部・杉本・宮本（浩）・高野・佐藤（環）・安		■					-	-	-	-	-	-	-	

【児童生徒支援コース】

【児童生徒支援コース】										※■必修 □選択						免許対応区分							
科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目の名称	開講学期・クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学校運営	教育発方法	児童生徒支援	教科領域	特別学支援	養護科学	科目区分	幼	小	中	高	養教	特別支援	備考
専門科目	コース別科目	P-EDU-7	学校不適応問題への理解と対応	後期	月	4	P1	2	三輪・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学級経営と個別指導の実践	前期	木	2	P1	2	安・三輪			■				基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	前期	火	4	P1	2	渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援課題研究Ⅰ	前期	木	5	P1	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援課題研究Ⅱ	後期	木	5	P1	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援課題研究Ⅲ	前期	木	5	P2	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援課題研究Ⅳ	後期	木	5	P2	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援実践研究Ⅰ	通年	集中		P1	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	児童生徒支援実践研究Ⅱ	通年	集中		P2	1	三輪・渡部・安			■				道徳	○	○	○	○	○	-	
	コース間融合科目	P-EDU-7	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	前期	金	2	P1	2	五島・高野	■	□	□				基礎	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学習指導・学習評価の課題と方法	前期	火	3	P1	2	杉本	□	■	□				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育カウンセリング実践と事例研究	後期	月	3	P1	2	三輪	□	□	■				道徳	○	○	○	○	○	-	
		P-EDU-7	教育臨床問題と道徳	後期	木	2	P1	2	宮本（浩）・安		■	■				道徳	-	○	○	-	○	-	
		P-EDU-7	子ども理解と学習支援	後期	木	4	P1	2	渡部・打越・杉本・宮本（浩）・安		■	■				道徳	○	○	○	○	○	-	
実習科目	コース別実習	P-EDU-7	児童生徒支援実習	後期	集中		P1	3	三輪・渡部・安			■				-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	学校適応アセスメント実習	前期	集中		P2	3	三輪・渡部・安			■				-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	学校適応支援実習	後期	集中		P2	2	三輪・渡部・安			■				-	-	-	-	-	-	-	
	融合実習	P-EDU-7	課題発見実習(児童生徒支援コース)	前期	集中		P1	2	鈴木（稔）・長谷川・加藤・打越・三輪・渡部・杉本・宮本（浩）・高野・佐藤（環）・安			■				-	-	-	-	-	-	-	

【教科領域コース】

※■必修 □選択

科目区分		科目ナンバ リングコー ド	授業科目の名称	開講学期・ クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学 校 運 営	学 校 開 発 方 法	教 育 支 援 児 童 生 徒	数 科 領 域	特 別 学 支 援	養 護 科 学	免許対応区分							備考
																科目 区分	幼	小	中	高	養 教	特別 支援	
専 門 科 目	コ ー ス 別 科 目	P-EDU-7	国語科内容総合研究	前期	月	2	P1	2	齋木・宮崎・昌子・鈴木（一）・李・鈴木（裕）				□			教科	-	○	-	-	-	-	国語
		P-EDU-7	国語科科目研究（国語学・書写書道）	後期	火	1	P1	2	齋木・昌子・鈴木（裕）				□			国語	-	-	○	○	-	-	国語
		P-EDU-7	国語科科目研究（国文学・漢文学）	後期	木	5	P1	2	宮崎・鈴木（一）・李				□			国語	-	-	○	○	-	-	国語
		P-EDU-7	国語科総合演習Ⅰ	通年	集中		P1	2	齋木・宮崎・昌子・鈴木（一）・李・鈴木（裕）				□			国語	-	-	○	○	-	-	国語
		P-EDU-7	国語科総合演習Ⅱ	通年	集中		P2	2	齋木・宮崎・昌子・鈴木（一）・李・鈴木（裕）				□			国語	-	-	○	○	-	-	国語
		P-EDU-7	社会科内容総合研究	前期	火	3	P1	2	木村・千葉・佐藤（邦）・松村（好）・金久保				□			教科	-	○	-	-	-	-	社会
		P-EDU-7	社会科科目研究（歴史）	前期	火	2	P1	2	千葉・木村・金久保				□			中；社会 高；地理 歴史	-	-	○	○	-	-	社会/地理・歴史
		P-EDU-7	社会科科目研究（地理）	後期	木	3	P1	2	池庄司・金久保・木村				□			中；社会 高；地理 歴史	-	-	○	○	-	-	社会/地理・歴史
		P-EDU-7	社会科科目研究（社会と人間）	前期	月	2	P1	2	木村・佐藤（邦）・松村（好）				□			中；社会 高；公民	-	-	○	○	-	-	社会/公民
		P-EDU-7	社会科科目研究（法律と政治）	後期	月	2	P1	2	木村・佐藤（邦）・松村（好）				□			中；社会 高；公民	-	-	○	○	-	-	社会/公民
		P-EDU-7	社会科総合演習ⅠA	通年	集中		P1	2	千葉・金久保				□			中；社会 高；地理 歴史	-	-	○	○	-	-	社会/地理・歴史
		P-EDU-7	社会科総合演習ⅠB	通年	集中		P1	2	木村・佐藤（邦）・松村（好）				□			中；社会 高；公民	-	-	○	○	-	-	社会/公民
		P-EDU-7	社会科総合演習ⅡA	通年	集中		P2	2	千葉・金久保				□			中；社会 高；地理 歴史	-	-	○	○	-	-	社会/地理・歴史
		P-EDU-7	社会科総合演習ⅡB	通年	集中		P2	2	木村・佐藤（邦）・松村（好）				□			中；社会 高；公民	-	-	○	○	-	-	社会/公民
		P-EDU-7	算数科内容総合研究	前期	火	1	P1	2	吉井・栗原・梅津・松村（初）・小口（祐）・萩原				□			教科	-	○	-	-	-	-	算数
		P-EDU-7	数学科科目研究（代数学・幾何学）	後期	火	1	P1	2	吉井・栗原・萩原				□			数学	-	-	○	○	-	-	数学
		P-EDU-7	数学科科目研究（解析学・統計学）	後期	火	2	P1	2	梅津・松村（初）・小口（祐）				□			数学	-	-	○	○	-	-	数学
		P-EDU-7	数学科総合演習Ⅰ	通年	集中		P1	2	吉井・栗原・梅津・松村（初）・小口（祐）・萩原				□			数学	-	-	○	○	-	-	数学
		P-EDU-7	数学科総合演習Ⅱ	通年	集中		P2	2	吉井・栗原・梅津・松村（初）・小口（祐）・萩原				□			数学	-	-	○	○	-	-	数学
		P-EDU-7	理科内容総合研究	後期	木	4	P1	2	永尾・青島・阿部・齋田・伊藤（孝）・上栗・郡司・宮本（直）				□			教科	-	○	-	-	-	-	理科
		P-EDU-7	理科学科目研究（エネルギー・粒子）	前期	月	2	P1	2	永尾・青島・郡司・宮本（直）				□			理科	-	-	○	○	-	-	理科
		P-EDU-7	理科学科目研究（生命・地球）	後期	火	3	P1	2	阿部・齋田・伊藤・上栗・宮本（直）				□			理科	-	-	○	○	-	-	理科
		P-EDU-7	理科総合演習Ⅰ	通年	集中		P1	2	永尾・青島・阿部・齋田・伊藤（孝）・上栗・郡司・宮本（直）				□			理科	-	-	○	○	-	-	理科
		P-EDU-7	理科総合演習Ⅱ	通年	集中		P2	2	永尾・青島・阿部・齋田・伊藤（孝）・上栗・郡司・宮本（直）				□			理科	-	-	○	○	-	-	理科
		P-EDU-7	音楽科内容総合研究	後期	月	3	P1	2	田中・谷川・山口・秋葉				□			教科	-	○	-	-	-	-	音楽
		P-EDU-7	音楽科科目研究（表現）	後期	木	1	P1	2	田中・山口・谷川				□			音楽	-	-	○	○	-	-	音楽
		P-EDU-7	音楽科科目研究（鑑賞）	前期	木	4	P1	2	山口・谷川				□			音楽	-	-	○	○	-	-	音楽

	P-EDU-7	音楽科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	谷川・山口・田中・秋葉				☐			音楽	-	-	○	○	-	-	音楽
	P-EDU-7	音楽科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	谷川・山口・田中・秋葉				☐			音楽	-	-	○	○	-	-	音楽
	P-EDU-7	図画工作科内容総合研究	後期	火	3	P1	2	甲斐・片口・齋藤（芳）・小口（あ）				☐		教科	-	○	-	-	-	-	図工
	P-EDU-7	美術科科目研究（絵画・彫刻）	後期	月	4	P1	2	片口・甲斐				☐		美術	-	-	○	○	-	-	美術
	P-EDU-7	美術科科目研究（デザイン・工芸）	前期	金	3	P1	2	齋藤（芳）・甲斐				☐		美術	-	-	○	○	-	-	美術
	P-EDU-7	美術科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	甲斐・片口・齋藤（芳）・小口（あ）				☐			美術	-	-	○	○	-	-	美術
	P-EDU-7	美術科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	甲斐・片口・齋藤（芳）・小口（あ）				☐			美術	-	-	○	○	-	-	美術
	P-EDU-7	体育科内容総合研究	後期	金	4	P1	2	吉野・大津・上地・渡邊（将）・篠田・中嶋				☐		教科	-	○	-	-	-	-	体育
	P-EDU-7	保健体育科科目研究（保健・体育学）	前期	金	1	P1	2	吉野・大津・上地・中嶋				☐		保健体育	-	-	○	○	-	-	保健体育
	P-EDU-7	保健体育科科目研究（運動学）	後期	金	1	P1	2	吉野・大津・渡邊（将）・篠田・中嶋				☐		保健体育	-	-	○	○	-	-	保健体育
	P-EDU-7	保健体育科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	吉野・大津・上地・渡邊（将）・中嶋・篠田				☐			保健体育	-	-	○	○	-	-	保健体育
	P-EDU-7	保健体育科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	吉野・大津・上地・渡邊（将）・中嶋・篠田				☐			保健体育	-	-	○	○	-	-	保健体育
	P-EDU-7	技術科内容総合研究	前期	月	2	P1	2	野崎・榊・大西・工藤・川路				☐		中：技術 高：工業	-	-	○	○	-	-	技術/工業
	P-EDU-7	技術科科目研究（材料と加工・生物育成）	後期	火	1	P1	2	野崎・大西				☐		中：技術 高：工業	-	-	○	○	-	-	技術/工業
	P-EDU-7	技術科科目研究（エネルギー変換・情報）	前期	火	3	P1	2	榊・工藤・川路				☐		中：技術 高：工業	-	-	○	○	-	-	技術/工業
	P-EDU-7	技術科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	野崎・榊・大西・川路				☐			中：技術 高：工業	-	-	○	○	-	-	技術/工業
	P-EDU-7	技術科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	野崎・榊・大西・川路				☐			中：技術 高：工業	-	-	○	○	-	-	技術/工業
	P-EDU-7	家庭科内容総合研究	前期	月	5	P1	2	野中・石島・佐藤（裕）・西川				☐		教科	-	○	-	-	-	-	家庭
	P-EDU-7	家庭科科目研究（人間生活分野）	後期	火	5	P1	2	佐藤（裕）・野中				☐		家庭	-	-	○	○	-	-	家庭
	P-EDU-7	家庭科科目研究（生活環境分野）	前期	火	5	P1	2	西川・石島				☐		家庭	-	-	○	○	-	-	家庭
	P-EDU-7	家庭科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	野中・石島・佐藤（裕）・西川				☐			家庭	-	-	○	○	-	-	家庭
	P-EDU-7	家庭科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	野中・石島・佐藤（裕）・西川				☐			家庭	-	-	○	○	-	-	家庭
	P-EDU-7	英語科内容総合研究	前期	火	3	P1	2	齋藤（英）・青田				☐		教科	-	○	-	-	-	-	英語
	P-EDU-7	英語科科目研究（英語学）	後期	火	3	P1	2	安原・齋藤（英）				☐		英語	-	-	○	○	-	-	英語
	P-EDU-7	英語科科目研究（英語文学）	後期	火	4	P1	2	君塚・小林（英）・青田				☐		英語	-	-	○	○	-	-	英語
	P-EDU-7	英語科総合演習Ⅰ	通年	集中	P1	2	小林（英）・齋藤（英）・安原・青田				☐			英語	-	-	○	○	-	-	英語
	P-EDU-7	英語科総合演習Ⅱ	通年	集中	P2	2	小林（英）・齋藤（英）・安原・青田				☐			英語	-	-	○	○	-	-	英語
コース 間 融 合 科	P-EDU-7	ことばの諸相と教育	休講			P1	2	千葉・安原・鈴木（裕）				☐	☐	☐	-	-	-	-	-	-	
	P-EDU-7	社会の数理	後期	木	3	P1	2	千葉・吉井				☐	☐	☐	-	-	-	-	-	-	

	目	P-EDU-7	あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	前期	木	3	P1	2	山口・片口・小林（英）				☐	☐	☐	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	時間と空間の表現世界	休講			P1	2	谷川・齋藤（芳）・君塚				☐	☐	☐	-	-	-	-	-	-		
		P-EDU-7	読み・書き・計算のつまずきと支援	前期	火	2	P1	2	齋木・松村（初）・田原・勝二				☐	☐	☐	特支	-	-	-	-	-	○	
		P-EDU-7	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	前期	木	4	P1	2	渡邊（幹）・勝二・青柳・田原・秋葉				☐	☐	☐	特支	-	-	-	-	-	○	「時間と空間の表現世界」と同時開講
		P-EDU-7	茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ	後期	月	3	P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳				☐	☐	☐	道徳	-	○	○	○	-	-	奇数年開講（「茨城に学ぶⅡ」と隔年で開講）
		P-EDU-7	茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ	休講			P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳				☐	☐	☐	道徳	-	○	○	○	-	-	偶数年開講（「茨城に学ぶⅠ」と隔年で開講）
		P-EDU-7	防災を含む安全に関する教育	後期	金	2	P1	2	伊藤・上栗・上地・大西・松村（好）・金久保・石島				☐	☐	☐	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ	後期	月	1	P1	2	郡司・西川・阿部・廣田				☐	☐	☐	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	教育現場における生成AIの活用方法	後期	木	4	P1	2	李・川路				☐	☐	☐	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	課題探索演習	通年		集中		P1	2	千葉・石島・小林（英）・田中・片口・鈴木（一）・宮本（直）・大西・萩原・田原・石原・中嶋				☒	☒	☒	道徳	-	○	○	○	-	-
実 習 科 目	コ ー ス 別 実 習	P-EDU-7	教科領域実習Ⅰ	通年		集中		P1	3	教科領域コース専任・兼任教員				☒			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教科領域実習Ⅱ	前期		集中		P2	3	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教科領域実習Ⅲ	休講				P2	5	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
	コ ー ス 間 融 合 実 習	P-EDU-7	教材開発実習ⅠA（教科領域コース）	前期		集中		P1	1	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅡA（教科領域コース）	前期		集中		P2	1	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅠB（教科領域コース）	通年		集中		P1	1	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅡB（教科領域コース）	通年		集中		P2	1	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）	前期		集中		P1	1	教科領域コース専任・兼任教員				☐			-	-	-	-	-	-	

【特別支援科学コース】

【特別支援科学コース】										※■必修 □選択							免許対応区分								
科目区分		科目ナンバ リングコー ド	授業科目の名称	開講学期・ クォーター	曜 日	講 時	年次	単 位	担当教員	学 校 運 営	教 育 発 達 方 法	児 童 支 援 生 徒	教 科 領 域	特 別 学 支 援	養 護 科 学	科目 区分	幼	小	中	高	養 教	特別 支援	備考		
専門 科目	コース別 科目	P-EDU-7	特別支援学校の教材開発	休講			P1	2	新井					□		特支	-	-	-	-	-	○	奇数年開講		
		P-EDU-7	特別支援学校の授業づくり	前期	集中		P1	2	新井					□		特支	-	-	-	-	-	○	偶数年開講		
		P-EDU-7	感覚障害児のアセスメントと支援	後期	月	4	P1	2	田原					□		特支	-	-	-	-	-	○			
		P-EDU-7	知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	前期	月	2	P1	2	細川					□		特支	-	-	-	-	-	○	奇数年開講		
		P-EDU-7	知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ	休講			P1	2	細川					□		特支	-	-	-	-	-	○	偶数年開講		
		P-EDU-7	障害児の生理機能評価と支援	後期	金	4	P1	2	勝二					□		特支	-	-	-	-	-	○			
		P-EDU-7	特別支援教育総合演習	前期	月	5	P1	2	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		特支	-	-	-	-	-	○			
		P-EDU-7	特別支援教育課題発見演習	後期	月	5	P1	2	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		特支	-	-	-	-	-	○			
		P-EDU-7	特別支援教育課題分析演習	前期	木	5	P2	2	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		特支	-	-	-	-	-	○			
		P-EDU-7	特別支援教育課題解決演習	後期	木	5	P2	2	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		特支	-	-	-	-	-	○			
	コース間 融合科目	P-EDU-7	ことばの諸相と教育	休講			P1	2	千葉・安原・鈴木（裕）					□	□	□	-	-	-	-	-	-	-		
		P-EDU-7	社会の数理	後期	木	3	P1	2	千葉・吉井					□	□	□	-	-	-	-	-	-	-		
		P-EDU-7	あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	前期	木	3	P1	2	山口・片口・小林（英）					□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-		
		P-EDU-7	時間と空間の表現世界	休講			P1	2	谷川・齋藤（芳）					□	□	□	-	-	-	-	-	-	-		
		P-EDU-7	読み・書き・計算のつまずきと支援	前期	火	2	P1	2	齋木・松村（初）・田原・勝二					□	□	□	特支	-	-	-	-	-	○		
		P-EDU-7	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	前期	木	4	P1	2	渡邊（特）・勝二・青柳・田原・秋葉					□	□	□	特支	-	-	-	-	-	○	「時間と空間の表現世界」と同時開講	
		P-EDU-7	茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ	後期	月	3	P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳					□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	奇数年開講（「茨城に学ぶⅡ」と隔年で開講）	
		P-EDU-7	茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ	休講			P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳					□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	偶数年開講（「茨城に学ぶⅠ」と隔年で開講）	
		P-EDU-7	防災を含む安全に関する教育	後期	金	2	P1	2	伊藤・上栗・上地・大西・松村（好）・金久保・石島					□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-		
		P-EDU-7	持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ	後期	月	1	P1	2	郡司・西川・阿部・廣田					□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-		
		P-EDU-7	教育現場における生成AIの活用方法	後期	木	4	P1	2	李・川路					□	□	□	-	-	-	-	-	-	-		
		P-EDU-7	課題探索演習	通年	集中		P1	2	千葉・石島・小林（英）・田中・片口・鈴木（一）・宮本（直）・大西・萩原・田原・石原・中嶋					■	■	■	道徳	-	○	○	○	-	-		
		実習 科目	コース別 実習	P-EDU-7	特別支援教育教材開発実習Ⅰ	前期	集中		P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		-	-	-	-	-	-	-	
				P-EDU-7	特別支援教育教材開発実習Ⅱ	前期	集中		P2	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					□		-	-	-	-	-	-	-	
				P-EDU-7	特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	後期	集中		P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					■		-	-	-	-	-	-	-	
				P-EDU-7	特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	後期	集中		P2	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口					□		-	-	-	-	-	-	-	

		P-EDU-7	特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	通年	集中	P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						■		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	通年	集中	P2	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	特別支援教育授業改善実習	通年	集中	P2	5	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
	コース間 融合実習	P-EDU-7	教材開発実習ⅠA（特別支援科学コース）	前期	集中	P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅡA（特別支援科学コース）	前期	集中	P2	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅠB（特別支援科学コース）	通年	集中	P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅡB（特別支援科学コース）	通年	集中	P2	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	子どもと大人への一次救命処置実習（特別支援科学コース）	前期	集中	P1	1	新井・勝二・細川・田原・石田・井口						□		-	-	-	-	-	-	-	

【養護科学コース】

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目の名称	開講学期・クォーター	曜日	講時	年次	単位	担当教員	学校運営	開発方法	児童生徒支援	教科領域	特別支援	養護科学	免許対応区分							備考
専門科目	コース別科目	P-EDU-7	健康科学と社会創造	後期	木	4	P1	2	瀧澤・石原						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	学校における医学・看護学	後期	金	1	P1	2	古池・土方						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	養護活動と健康増進科学	後期	金	4	P1	2	青柳・竹下						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	臨床医学特論	後期	月	4	P1	2	布施・渡邊（雅）						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	養護科学課題発見演習	後期	集中		P1	2	瀧澤・石原・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	養護科学課題分析演習	前期	集中		P2	2	瀧澤・石原・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
		P-EDU-7	養護科学課題解決演習	後期	集中		P2	2	瀧澤・石原・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						■	中・高：保健 養教・養	-	-	○	○	○	-	
	コース間融合科目	P-EDU-7	ことばの諸相と教育	休講			P1	2	千葉・安原・鈴木（裕）				□	□	□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	社会の数理	後期	木	3	P1	2	千葉・吉井				□	□	□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	前期	木	3	P1	2	山口・片口・小林（英）				□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	時間と空間の表現世界	休講			P1	2	谷川・齋藤（芳）				□	□	□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	読み・書き・計算のつまずきと支援	前期	火	2	P1	2	齋木・松村（初）・田原・勝二				□	□	□	特支	-	-	-	-	-	○	
		P-EDU-7	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	前期	木	4	P1	2	渡邊（特）・勝二・青柳・田原・秋葉				□	□	□	特支	-	-	-	-	-	○	「時間と空間の表現世界」と同時開講
		P-EDU-7	茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅰ	後期	月	3	P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳				□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	奇数年開講（「茨城に学ぶⅡ」と隔年で開講）
		P-EDU-7	茨城に学ぶ一地域における教員の在り方Ⅱ	休講			P1	2	千葉・伊藤・上栗・片口・石島・柳				□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	偶数年開講（「茨城に学ぶⅠ」と隔年で開講）
		P-EDU-7	防災を含む安全に関する教育	後期	金	2	P1	2	伊藤・上栗・上地・大西・松村（好）・金久保・石島				□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	後期	月	1	P1	2	郡司・西川・阿部・藁田				□	□	□	道徳	-	○	○	○	-	-	
		P-EDU-7	教育現場における生成AIの活用方法	後期	木	4	P1	2	李・川路				□	□	□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	課題探索演習	通年	集中		P1	2	千葉・石島・小林（英）・田中・片口・鈴木（一）・宮本（直）・大西・萩原・田原・石原・中嶋				■	■	■	道徳	-	○	○	○	-	-	
実習科目	コース別実習	P-EDU-7	養護科学実習Ⅰ	通年	集中		P1	2	瀧澤・古池・青柳・石原・竹下・土方						■	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	養護科学実習Ⅱ	通年	集中		P2	4	瀧澤・古池・青柳・石原・竹下・土方						□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	養護科学実習Ⅲ	通年	集中		P2	4	瀧澤・古池・青柳・石原・竹下・土方						□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	養護科学実習Ⅳ	後期	集中		P1	2	瀧澤・石原・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						■	-	-	-	-	-	-	-	
	コース間融合実習	P-EDU-7	教材開発実習ⅠA（養護科学コース）	前期	集中		P1	1	石原・瀧澤・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	教材開発実習ⅠB（養護科学コース）	通年	集中		P1	1	石原・瀧澤・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						□	-	-	-	-	-	-	-	
		P-EDU-7	子どもと大人への一次救命処置実習（養護科学コース）	前期	集中		P1	1	石原・瀧澤・古池・青柳・布施・渡邊（雅）・竹下・土方						□	-	-	-	-	-	-	-	

V 履修計画指針
(カリキュラムモデル・
コースツリー)

学校運営コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 <48単位以上>		1年次		2年次	
共通科目 <20単位以上>		前期	後期	前期	後期
第1領域 <2単位> 第2領域 <4単位以上> 第3領域 <4単位> 第4領域 <4単位以上> 第5領域 <4単位> 第6領域 <2単位>		【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域 ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ[1](必修) ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ[1](必修) 【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域 ●子ども理解にもとづく学習指導[2](必修) ●授業研究の方法と実践[2](必修) ●ICT活用とプログラミング[2] 【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●発達障害児の理解と支援[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学級経営実践演習[2](必修) 【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●茨城の教育改革と開かれた学校づくり[2](必修) ●教師のライフステージと資質向上[2](必修)	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●教育相談の課題と支援[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学校マネジメント実践演習[2](必修) ●インクルーシブ教育の学校づくり[2] 【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域 ●校内研修の企画・立案と実践[2](必修)		
		●教育政策の実施と評価[2](必修) ●スクール・リーダーシップとその実践[2](必修) ●学校運営課題研究Ⅰ[1](必修)	●教育行財政と法規[2](必修) ●学校危機管理論と実践演習[2](必修) ●学校における評価マネジメント実践演習[2](必修) ●学校運営課題研究Ⅱ[1](必修)	●学校運営課題研究Ⅲ[1](必修)	●学校運営課題研究Ⅳ[1](必修)
		●学校運営実践研究Ⅰ[1](必修)		●学校運営実践研究Ⅱ[1](必修)	
		●学校を基盤としたカリキュラム開発と実践[2](必修) ●学習指導・学習評価の課題と方法[2]	●教育カウンセリング実践と事例研究[2]		
		●学校運営開発実習Ⅰ[3](必修)	●学校運営開発実習Ⅱ[5](必修)		
		●課題発見実習(学校運営コース)[2](必修)			

教育方法開発コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 <48単位以上>		1年次		2年次	
前期		後期		前期	後期
共通科目 <20単位以上>		【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域 ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ[1](必修) ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ[1](必修)	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●教育相談の課題と支援[2](必修)		
		【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域 ●子ども理解にもとづく学習指導[2](必修) ●授業研究の方法と実践[2](必修)	【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学校マネジメント実践演習[2](必修) ●インクルーシブ教育の学校づくり[2]		
		●ICT活用とプログラミング[2]	【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域 ●校内研修の企画・立案と実践[2](必修)		
		【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●発達障害児の理解と支援[2](必修)			
第1領域 <2単位> 第2領域 <4単位以上> 第3領域 <4単位> 第4領域 <4単位以上> 第5領域 <4単位> 第6領域 <2単位>		【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学級経営実践演習[2](必修)			
		【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●茨城の教育改革と開かれた学校づくり[2](必修) ●教師のライフステージと資質向上[2](必修)			
専門科目 Λ 18 単位以上 V	コース別科目 <12単位>	●教材研究と授業設計[2](必修) ●人間形成の現代的課題と学習指導[2](必修) ●教育方法開発課題研究Ⅰ[1](必修)	●授業研究による授業改善[2](必修) ●教育方法開発課題研究Ⅱ[1](必修)	●教育方法開発課題研究Ⅲ[1](必修)	●教育方法開発課題研究Ⅳ[1](必修)
	コース間融合科目 <6単位以上>	●学習指導・学習評価の課題と方法[2](必修) ●学校を基盤としたカリキュラム開発と実践[2]	●子ども理解と学習支援[2](必修) ●教育臨床問題と道徳[2](必修) ●教育カウンセリング実践と事例研究[2]		
実習科目 Λ 10 単位 V	コース別実習 <8単位>		●教育方法開発実習Ⅰ[3](必修)	●教育方法開発実習Ⅱ[5](必修)	
	コース間融合実習 <2単位>	●課題発見実習(教育方法開発コース)[2](必修)			

児童生徒支援コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 <48単位以上>		1年次		2年次	
共通科目 <20単位以上>		前期	後期	前期	後期
第1領域 <2単位> 第2領域 <4単位以上> 第3領域 <4単位> 第4領域 <4単位以上> 第5領域 <4単位> 第6領域 <2単位>		【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域 ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ[1](必修) ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ[1](必修) 【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域 ●子ども理解にもとづく学習指導[2](必修) ●授業研究の方法と実践[2](必修) ●ICT活用とプログラミング[2] 【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●発達障害児の理解と支援[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学級経営実践演習[2](必修) 【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●茨城の教育改革と開かれた学校づくり[2](必修) ●教師のライフステージと資質向上[2](必修)	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●教育相談の課題と支援[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●学校マネジメント実践演習[2](必修) ●インクルーシブ教育の学校づくり[2] 【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域 ●校内研修の企画・立案と実践[2](必修)		
		●学級経営と個別指導の実践[2](必修) ●学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法[2](必修) ●児童生徒支援課題研究Ⅰ[1](必修)	●学校不適応問題への理解と対応[2](必修) ●児童生徒支援課題研究Ⅱ[1](必修)	●児童生徒支援課題研究Ⅲ[1](必修)	●児童生徒支援課題研究Ⅳ[1](必修)
		●児童生徒支援実践研究Ⅰ[1](必修)		●児童生徒支援実践研究Ⅱ[1](必修)	
		●学校を基盤としたカリキュラム開発と実践[2] ●学習指導・学習評価の課題と方法[2]	●子ども理解と学習支援[2](必修) ●教育臨床問題と道徳[2](必修) ●教育カウンセリング実践と事例研究[2](必修)		
		●児童生徒支援実習[3](必修)	●児童生徒支援実習[3](必修)	●学校適応アセスメント実習[3](必修)	●学校適応支援実習[2](必修)
		●課題発見実習(児童生徒支援コース)[2](必修)			

教科領域コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 ＜48単位以上＞		1年次		2年次	
共通科目 ＜18単位以上＞		前期	後期	前期	後期
第1領域 ＜2単位＞ 第2領域 ＜4単位以上＞ 第3領域 ＜4単位以上＞ 第4領域 ＜2単位以上＞ 第5領域 ＜2単位以上＞ 第6領域 ＜2単位＞ ※第2領域、第3領域、第4領域及び第5領域から合計14単位以上修得すること		【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域		
		●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ〔1〕(必修)	●子どもの健康と生徒指導〔2〕(必修)		
		●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ〔1〕(必修)	【第4領域】学級経営、学校経営に関する		
		【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域	●インクルーシブ教育の学校づくり〔2〕		
		●ICT活用とプログラミング〔2〕	【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域		
		●主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）〔2〕★（★マークからひとつ選択）	●学校における多様性の受容と活用〔2〕		
		●主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）〔2〕★（★マークからひとつ選択）	【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域		
		●主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）〔2〕★（★マークからひとつ選択）	●教育測定(評価)と校内研修〔2〕(必修)		
		●特別支援教育の自立活動の授業づくり〔2〕			
		●心とからだの発達と保健〔2〕			
		【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域			
		●発達障害児の理解と支援〔2〕(必修)			
		●特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス〔2〕			
		【第4領域】学級経営、学校経営に関する			
		●学級力を高めるコミュニケーション〔2〕			
		【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域			
		●茨城の教育改革と開かれた学校づくり〔2〕(必修)			
20 専 門 単 位 以 上 V	コース別科目 ＜10単位以上＞ ※科目名は学生便覧Ⅲ規則表3を確認	●○○科内容総合研究〔2〕	●○○科科目研究（△△）〔2〕 ●○○科科目研究（□□）〔2〕	●○○科総合演習Ⅱ〔2〕	
		●○○科総合演習Ⅰ〔2〕			
	コース間融合科目 ＜10単位以上＞	●時間と空間の表現世界〔2〕（奇数年開講） ●あそびに学ぶ-Communication with Imagination-〔2〕☆（☆マークのいずれか1科目選択） ●読み・書き・計算のつまずきと支援〔2〕☆（☆マークのいずれか1科目選択） ●動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法〔2〕	●ことばの諸相と教育〔2〕（偶数年開講） ●社会の数理〔2〕（奇数年開講） ●茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ〔2〕（奇数年開講） ●茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ〔2〕（偶数年開講） ●防災を含む安全に関する教育〔2〕 ●持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ〔2〕 ●教育現場における生成AIの活用方法		
		●課題探索演習〔2〕(必修)			
10 実 習 単 位 V	コース別実習	●教科領域実習Ⅰ〔3〕(学部新卒学生・現職教員学生ともに必修)		●教科領域実習Ⅱ〔3〕 (学部新卒学生必修)	
	学部 新卒学生 ＜6単位＞			●教科領域実習Ⅲ〔5〕 (現職教員学生必修)	
	現職教員 学生 ＜8単位＞				
	学部 新卒学生 ＜4単位＞	●子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）〔1〕		●教材開発実習ⅡA(教科領域コース)〔1〕(学部新卒学生必修) ●教材開発実習ⅡB(教科領域コース)〔1〕(学部新卒学生必修)	
		●教材開発実習ⅠA(教科領域コース)〔1〕 ●教材開発実習ⅠB(教科領域コース)〔1〕			
	現職 教員学生 ＜2単位＞	●教材開発実習ⅠA(教科領域コース)〔1〕 ●子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）〔1〕			
		●教材開発実習ⅠB(教科領域コース)〔1〕			

特別支援科学コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 <48単位以上>		1年次		2年次	
前期		後期		前期	後期
共通科目 <18単位以上> 第1領域 <2単位> 第2領域 <2単位以上> 第3領域 <6単位> 第4領域 <2単位以上> 第5領域 <2単位以上> 第6領域 <2単位> ※第2領域、第4領域及び第5領域から合計8単位以上修得すること		【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域 ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ[1](必修) ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ[1](必修) 【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域 ●心とからだの発達と保健[2] ●特別支援教育の自立活動の授業づくり[2](必修) 【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●発達障害児の理解と支援[2](必修) ●特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス[2](必修) 【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●茨城の教育改革と開かれた学校づくり[2](必修)	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●子どもの健康と生徒指導[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する領域 ●インクルーシブ教育の学校づくり[2](必修) 【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域 ●教育測定(評価)と校内研修[2](必修)		
		●特別支援学校の教材開発[2] (奇数年開講) ●特別支援学校の授業づくり[2] (偶数年開講) ●知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ[2] (奇数年開講) ●知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ[2] (偶数年開講) ●特別支援教育総合演習[2] (必修)	●感覚障害児のアセスメントと支援[2] ●障害児の生理機能評価と支援[2] ●特別支援教育課題発見演習[2](必修)	●特別支援教育課題分析演習[2](必修)	●特別支援教育課題解決演習[2](必修)
		●読み・書き・計算のつまずきと支援[2] ●動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法[2] ●課題探索演習[2](必修)			
		●特別支援教育教材開発実習Ⅰ[1](学部新卒学生・現職教員学生ともに必修) ●特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ[1](学部新卒学生・現職教員学生ともに必修)	●特別支援教育アセスメント実習Ⅰ[1](学部新卒学生・現職教員学生ともに必修)	●特別支援教育教材開発実習Ⅱ[1] (学部新卒学生必修) ●特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ[1] (学部新卒学生必修)	●特別支援教育アセスメント実習Ⅱ[1] (学部新卒学生必修)
コース別科目 <14単位以上>	コース間融合科目 <6単位以上>	●教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)[1] ●子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)〔1〕 ●教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)[1]		●教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース)[1] (学部新卒学生必修) ●教材開発実習ⅡB(特別支援科学コース)[1] (学部新卒学生必修)	
		●教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)[1] ●子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)〔1〕 ●教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)[1]			
		●教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)[1] ●子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)〔1〕 ●教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)[1]			
		●教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)[1] ●子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)〔1〕 ●教材開発実習ⅠB(特別支援科学コース)[1]			

養護科学コース

※〔 〕内の数字は単位数

修了要件 <48単位以上>			1年次		2年次	
共通科目 <18単位以上>			前期	後期	前期	後期
共通科目 <18単位以上> 第1領域 <2単位> 第2領域 <2単位以上> 第3領域 <4単位以上> 第4領域 <2単位以上> 第5領域 <2単位以上> 第6領域 <2単位> ※第2領域、第3領域、第4領域及び第5領域から合計14単位以上修得すること			【第1領域】教育課程の編成・実施に関する領域 ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ[1](必修) ●カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ[1](必修) 【第2領域】教科等の実践的な指導方法に関する領域 ●心とからだの発達と保健[2](必修) 【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●発達障害児の理解と支援[2](必修) ●特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス[2] 【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●茨城の教育改革と開かれた学校づくり[2](必修)	【第3領域】生徒指導、教育相談に関する領域 ●子どもの健康と生徒指導[2](必修) 【第4領域】学級経営、学校経営に関する ●インクルーシブ教育の学校づくり[2] 【第5領域】学校教育と教員の在り方に関する領域 ●学校における多様性の受容と活用[2] 【第6領域】学校改善と校内研修に関する領域 ●教育測定(評価)と校内研修[2](必修)		
^ 20 専 門 科 目 以 上 v	コース別科目 <14単位以上>			●健康科学と社会創造[2](必修) ●学校における医学・看護学[2](必修) ●養護活動と健康増進科学[2](必修) ●臨床医学特論[2](必修) ●養護科学課題発見演習[2](必修)	●養護科学課題分析演習[2](必修)	●養護科学課題解決演習[2](必修)
	コース間融合科目 <6単位以上>		●動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法[2] ●防災を含む安全に関する教育[2] ●課題探索演習[2](必修)			
^ 10 実 習 科 目 以 上 v	コース別実習 <8単位>	学部 新卒学生 <8単位>	●養護科学実習Ⅰ[2](必修)		●養護科学実習Ⅱ[4](学部新卒学生必修)	
				●養護科学実習Ⅳ[2](必修)		
	コース別実習 <8単位>	現職教員 学生 <8単位>	●養護科学実習Ⅰ[2](必修)		●養護科学実習Ⅲ[4](現職教員学生必修)	
				●養護科学実習Ⅳ[2](必修)		
	コース間融合実習 <2単位>		●教材開発実習ⅠA(養護科学コース)[1] ●子どもと大人への一次救命処置実習[1]			

学校運営コース

共通科目

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

コース間融合実習

課題発見実習
(P1前期)

- 各附属学校園の観察および実践補助とともに、管理職等の学校マネジメントを学び、学校運営の全体像を把握（附属学校園）

自身の研究課題を明確化する

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

学校運営開発実習Ⅰ
(P1後期)

- 自身の研究課題に関わる学校運営の計画および観察・実践により、実習の成果と課題の分析（現任校）

学校マネジメントの多面的な理解による自身の研究課題の明確化と内容の改善・具体化を図る

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

学校運営開発実習Ⅱ
(P2前・後期)

- 1年次での実習を踏まえ、課題解決のための学校運営の計画を立て、その実践と省察（現任校）

課題解決のために主体的に取り組む力と実践的指導力を高める

教育実践フォーラム（P2・2-3月）

学校の課題に基づいて学校運営を構想・展開し、省察・改善する実践力の向上へ

教育方法開発コース

共 通 科 目

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

コース間融合実習

課題発見実習
(P1前期)

- 各附属学校園の観察および実践補助・実践により、教師の指導の在り方を多面的に学び、発達段階に即した学習内容や教育活動の全体像を把握（附属学校園）

自身の研究課題を明確化する

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

教育方法開発実習Ⅰ
(P1後期)

- 自身の研究課題に関わる授業・指導方法の計画および観察・実践により、実習の成果と課題の分析（協力校）

研究課題と取り組み内容の改善・具体化を図る

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

教育方法開発実習Ⅱ
(P2前・後期)

- 1年次での実習を踏まえ、課題解決のための教育方法・授業開発の計画を立て、その実践と省察（学部新卒者：協力校）
（現職派遣教員：現任校）

課題解決のために主体的に取り組む力と実践的指導力を高める

教育実践フォーラム（P2・2-3月）

児童生徒理解に基づいて授業を構想・展開し、省察・改善する実践力の向上へ

児童生徒支援コース

共通科目

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

コース間融合実習

課題発見実習
(P1前期)

- 各附属学校園の観察および実践補助・実践により、教師の指導の在り方を多面的に学び、発達段階や児童生徒の特性に即した学習内容や教育活動の全体像を把握（附属学校園）

自身の研究課題を明確化する

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

児童生徒支援実習
(P1後期)

- 自身の研究課題と関係させながら、学校に馴染めない児童生徒の多面的理解と支援の方向性について検討およびその省察と成果についての事例発表（適応指導教室）

児童生徒の多面的な理解による自身の研究課題の一層の明確化と内容の具体化を図る

理論と実践の
往還

専門科目（コース別専門科目・コース間融合科目）

振り返り・改善

コース別実習

学校適応アセスメント実習
(P2前期)

学校適応支援実習
(P2後期)

- 1年次の実習を踏まえ、授業を含む学校活動において、児童生徒支援に関わる自身のテーマの実践とその成果に対する省察（協力校）

課題解決のために主体的に取り組む力と実践的指導力を高める

教育実践フォーラム（P2・2-3月）

児童生徒理解に基づく支援を構想・展開し、省察・改善する実践力の向上へ

コース間融合科目

コース間 融合実習

- 学校及び地域の要望に応じて、児童生徒の学力向上に資する活動を実施（茨城県内小・中学校や放課後児童クラブ等）
- 県内各地の社会教育施設で、児童生徒を対象とした教育普及活動を実施（茨城県立歴史館、茨城県近代美術館等）

地域での教育普及活動を通して、教材開発に役立てる

教材開発実習ⅠA
（P1前期）
教材開発実習ⅠB
（P1通年）

理論と実践の
往還

コース間融合科目
（課題探索演習）

振り返り・発展

コース間 融合実習

- これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担いながら、多様な子どもへの支援と教育普及活動を実施（茨城県内小・中学校、放課後児童クラブ、茨城県立歴史館、茨城県近代美術館等）

教科指導における教科・領域横断的視点の意義を明確にする

教材開発実習ⅡA
（P2前期）
教材開発実習ⅡB
（P2通年）

理論と実践の
往還

コース別専門科目（〇〇科総合研究）

振り返り・発展

コース別専門科目

コース別実習

教科領域実習Ⅰ
（P1通年）

- 授業見学・指導支援・教務補助等の活動を通して、児童生徒の「学びに向かう力」や教科指導の課題を把握（附属学校園）

専門領域の視点から、教科指導の課題を明確にする

理論と実践の
往還

コース別科目（〇〇科内容総合研究）

振り返り・発展

コース別実習

教科領域実習Ⅱ
（P2前期）

- コース別科目で深めた専門性とコース間融合実習で広げた視野をもとに、「教科領域実習Ⅰ」で明確にした課題の解決に向け、授業づくり及び授業実践を行い、その結果を分析（茨城県内小・中学校、高等学校）

エビデンスに基づいて取り組みを評価・改善する

教育実践フォーラム（P2・2-3月）

幼小中高の教科教育の専門性および授業実践力の向上へ

コース間融合科目

コース間 融合実習

- 学校及び地域の要望に応じて、児童生徒の学力向上に資する活動を実施（茨城県内小学校の放課後児童クラブ）
- 県内各地の社会教育施設で、児童生徒を対象とした教育普及活動を実施（茨城県立歴史館、茨城県陶芸美術館等）

地域での教育普及活動を通して、教材開発に役立てる

教材開発実習ⅠA
（P1前期）
教材開発実習ⅠB
（P1通年）

理論と実践の
往還

コース間融合科目
（課題探索演習）

振り返り・発展

コース間 融合実習

- これまでの学修成果をもとに、上級生としての指導的な役割も担いながら、多様な子どもへの支援と教育普及活動を実施（茨城県内小学校の放課後児童クラブ、茨城県立歴史館、茨城県陶芸美術館等）

特別ニーズのある子どもの対応を含めた教育実践を展開する

教材開発実習ⅡA
（P2前期）
教材開発実習ⅡB
（P2通年）

理論と実践の
往還

コース別専門科目（特別支援教育総合演習／特別支援教育課題発見演習／
特別支援教育課題分析演習／特別支援教育課題解決演習）

振り返り・発展

コース別専門科目

コース別実習

特別支援教育アセスメント実習Ⅰ・特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ
Ⅰ・特別支援教育教材開発実習Ⅰ
（P1前期・後期）

- 実態把握から支援方法を導き出す発達検査の実施（附属学校園）や学習や生活上の困難の背景を探り、支援方法を提案するケースカンファレンスの実施（協力幼稚園・小中学校）、特別ニーズのある子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するための教材開発（附属学校園等）

特別支援が必要な子どものアセスメントと教材開発

理論と実践の
往還

コース別科目（特別支援教育のアセスメントと支援／特別支援教育の授業づくり等）

振り返り・発展

コース別実習

特別支援教育アセスメント実習Ⅱ・特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ
Ⅱ・特別支援教育教材開発実習Ⅱ
（P2前期・後期）

- 1年次のコース別実習の経験を活かし、上級生として指導的な役割も担いながら、アセスメントや新しい教材開発を進め、実践を他者に説明する能力を高める。
- * 現職派遣教員は特別支援教育授業改善実習を通して、学校現場のリーダーとしての資質・能力を高める。

科学的な視点から実践を分析し、実践を説明する

教育実践フォーラム（P2・2-3月）

特別教育の専門性および教育実践力の向上へ

コース間融合科目

コース間 融合実習

教材開発実習 IA
(P1前期)
教材開発実習 IB
(P1通年)
子どもと大人への
一次救命処置実習
(P1集中)

- IA … 学校及び地域の要望に応じ、児童生徒の学力向上に資する活動を通して、子どもたちの健康課題を把握する力を習得（茨城県内小学校や放課後児童クラブなど）
- IB … 県内各地の社会教育施設で、児童生徒を対象とした教育普及活動を通して、校外学習時などの健康課題に関する留意点を考える力を習得（茨城県立歴史館、茨城県陶芸美術館など）
- 救命 … 救命救急センターで、心肺停止などの緊急事態に対する初期対応の基本と救命処置に関する連携力や指導力を習得（水戸済生会総合病院）

地域での実習を通して、子どもたちの健康を理解する

理論と実践の
往還

コース間融合科目
(課題探索演習)

振り返り・発展

- II … 実習校を絞り、年間を通して養護教諭の専門性を深めると同時に、1年次の実習を通して広がった視野のもと、より主体的かつ実践的な連携力を習得（附属学校、連携協力校（水戸市立小・中・義務教育学校、茨城県立高等学校、茨城県立特別支援学校））
- III … 現任校の健康問題等の課題を見出し、新たな視点で主体的に連携の視点を持ちながら解決に向けて実践（現任校）

養護教諭の専門性を軸に、科学的に健康を見つめ、主体的・能動的な連携により健康課題解決に向けて実践し評価・改善する

理論と実践の
往還

コース別科目
(養護科学課題分析演習・養護科学課題解決演習)

振り返り・発展

コース別専門科目

コース別実習

養護科学実習 I
(P1通年)
養護科学実習 IV
(P1後期)

- I … 各自の経験と課題をもとに実習校・実習内容を選択し、児童生徒の健康課題について個別あるいは集団的な対応や支援、養護教諭と中心とした校内連携を習得（附属学校、連携協力校（水戸市立小・中・義務教育学校、茨城県立高等学校、茨城県立特別支援学校））
- IV … 疾患を有する児童生徒の実情と心を理解し養護実践力を向上（連携協力校（茨城県立友部東特別支援学校、茨城県立水戸特別支援学校））

養護教諭の視点から、多様な児童生徒の発達段階に応じた対応と支援を理解する

理論と実践の
往還

コース別科目
(養護科学課題発見演習(ほか))

振り返り・発展

コース別実習

養護科学実習 II・III
(P2通年)

教育実践フォーラム (P2・2-3月)

養護教諭の専門性および養護実践力の向上へ

VI 授業科目とディプロマポリシーの 対応表

【学校運営コース】

科目区分		授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
			子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○	○
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	子ども理解にもとづく学習指導	○		○
		授業研究の方法と実践	○	○	
		ICT活用とプログラミング		○	○
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○		○
		教育相談の課題と支援		○	○
	学級経営、学校経営に関する領域	学校マネジメント実践演習			○
		学級経営実践演習		○	
		インクルーシブ教育の学校づくり			○
	学校教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり			○
		教師のライフステージと資質向上		○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	校内研修の企画・立案と実践	○	○	○
専門科目	コース別科目	教育政策の実施と評価		○	○
		教育行財政と法規		○	○
		スクール・リーダーシップとその実践	○	○	○
		学校危機管理論と実践演習		○	○
		学校における評価マネジメント実践演習		○	○
		学校運営課題研究Ⅰ	○	○	○
		学校運営課題研究Ⅱ	○	○	○
		学校運営課題研究Ⅲ	○	○	○
		学校運営課題研究Ⅳ	○	○	○
		学校運営実践研究Ⅰ	○	○	○
		学校運営実践研究Ⅱ	○	○	○
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践		○	
		学習指導・学習評価の課題と方法	○	○	
		教育カウンセリング実践と事例研究		○	○
実習科目	コース別実習	学校運営開発実習Ⅰ	○	○	○
		学校運営開発実習Ⅱ	○	○	○
	コース間融合実習	課題発見実習(学校運営コース)	○	○	○

【教育方法開発コース】

科目区分		授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
			子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○	○
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	子ども理解にもとづく学習指導	○		○
		授業研究の方法と実践	○	○	
		ICT活用とプログラミング		○	○
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○		○
		教育相談の課題と支援		○	○
	学級経営、学校経営に関する領域	学校マネジメント実践演習			○
		学級経営実践演習		○	
		インクルーシブ教育の学校づくり			○
	学校教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり			○
		教師のライフステージと資質向上		○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	校内研修の企画・立案と実践	○	○	○
専門科目	コース別科目	教材研究と授業設計		○	
		人間形成の現代的課題と学習指導	○		○
		授業研究による授業改善	○	○	
		教育方法開発課題研究Ⅰ	○	○	○
		教育方法開発課題研究Ⅱ	○	○	○
		教育方法開発課題研究Ⅲ	○	○	○
		教育方法開発課題研究Ⅳ	○	○	○
		教育方法開発実践研究Ⅰ	○	○	○
		教育方法開発実践研究Ⅱ	○	○	○
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践		○	
		学習指導・学習評価の課題と方法	○	○	
		教育カウンセリング実践と事例研究		○	○
		教育臨床問題と道徳		○	○
		子ども理解と学習支援	○	○	
実習科目	コース別実習	教育方法開発実習Ⅰ	○	○	○
		教育方法開発実習Ⅱ	○	○	○
	コース間融合実習	課題発見実習(教育方法開発コース)	○	○	○

【児童生徒支援コース】

科目区分		授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
			子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○	○
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	子ども理解にもとづく学習指導	○		○
		授業研究の方法と実践	○	○	
		ICT活用とプログラミング		○	○
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○		○
		教育相談の課題と支援		○	○
	学級経営、学校経営に関する領域	学校マネジメント実践演習			○
		学級経営実践演習		○	
		インクルーシブ教育の学校づくり			○
	学校教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり			○
		教師のライフステージと資質向上		○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	校内研修の企画立案と実践	○	○	○
専門科目	コース別科目	学校不適応問題への理解と対応	○	○	
		学級経営と個別指導の実践	○	○	
		学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	○	○	
		児童生徒支援課題研究Ⅰ	○	○	○
		児童生徒支援課題研究Ⅱ	○	○	○
		児童生徒支援課題研究Ⅲ	○	○	○
		児童生徒支援課題研究Ⅳ	○	○	○
		児童生徒支援実践研究Ⅰ	○	○	○
		児童生徒支援実践研究Ⅱ	○	○	○
	コース間融合科目	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践		○	
		学習指導・学習評価の課題と方法	○	○	
		教育カウンセリング実践と事例研究		○	○
		教育臨床問題と道徳		○	○
		子ども理解と学習支援	○	○	
実習科目	コース別実習	児童生徒支援実習	○	○	○
		学校適応アセスメント実習	○	○	○
		学校適応支援実習	○	○	○
	コース間融合実習	課題発見実習(児童生徒支援コース)	○	○	○

【教科領域コース】

科目区分	授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
		子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域			
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○	○
	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）	○	○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）	○	○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）	○	○
		ICT活用とプログラミング	○	○
		心とからだの発達と保健	○	○
		特別支援教育の自立活動の授業づくり	○	○
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○	○
		子どもの健康と生徒指導	○	
		特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	○	○
	学級経営、学校経営に関する領域	インクルーシブ教育の学校づくり		○
		学級力を高めるコミュニケーション	○	
	茨城の教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり		○
		学校における多様性の受容と活用	○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	教育測定（評価）と校内研修	○	○
専門科目	コース別科目	〇〇科（教科名）内容総合研究	○	
		〇〇科（教科名）科目研究（分野）	○	
		〇〇科（教科名）科目研究（分野）	○	
		〇〇科（教科名）総合演習Ⅰ	○	
		〇〇科（教科名）総合演習Ⅱ	○	
	コース間融合科目	ことばの諸相と教育		○
		社会の数理		○
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	○	○
		時間と空間の表現世界		○
		読み・書き・計算のつまずきと支援	○	○
		動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	○	○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ		○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ		○
		防災を含む安全に関する教育		○
		持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ		○
		教育現場における生成AIの活用方法		○
		課題探索演習		○
実習科目	コース別実習	教科領域実習Ⅰ	○	○
		教科領域実習Ⅱ	○	○
		教科領域実習Ⅲ	○	○
	コース間融合実習	教材開発実習ⅠA（教科領域コース）	○	○
		教材開発実習ⅡA（教科領域コース）	○	○
		教材開発実習ⅠB（教科領域コース）	○	○
		教材開発実習ⅡB（教科領域コース）	○	○
		子どもと大人への一次救命処置実習（教科領域コース）	○	○

【特別支援科学コース】

科目区分	授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
		子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）		○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）		○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）		○
		ICT活用とプログラミング	○	○
		心とからだの発達と保健	○	
		特別支援教育の自立活動の授業づくり	○	
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○	
		子どもの健康と生徒指導	○	
		特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	○	
	学級経営、学校経営に関する領域	インクルーシブ教育の学校づくり	○	
		学級力を高めるコミュニケーション	○	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり		○
		学校における多様性の受容と活用	○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	教育測定（評価）と校内研修	○	○
専門科目	コース別科目	特別支援学校の教材開発		○
		特別支援学校の授業づくり		○
		感覚障害児のアセスメントと支援		○
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ		○
		知的障害児のアセスメントと支援Ⅱ		○
		障害児の生理機能評価と支援		○
		特別支援教育総合演習		○
		特別支援教育課題発見演習		○
		特別支援教育課題分析演習		○
		特別支援教育課題解決演習		○
	コース間融合科目	ことばの諸相と教育		○
		社会の数理		○
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	○	○
		時間と空間の表現世界		○
		読み・書き・計算のつまずきと支援	○	○
		動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	○	○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ		○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ		○
		防災を含む安全に関する教育		○
		持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ		○
	実習科目	教育現場における生成AIの活用方法		○
		課題探索演習		○
	コース別実習	特別支援教育教材開発実習Ⅰ	○	○
		特別支援教育教材開発実習Ⅱ	○	○
		特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	○	○
		特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	○	○
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	○	○
		特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	○	○
		特別支援教育授業改善実習	○	○
	コース間融合実習	教材開発実習ⅠA（特別支援科学コース）	○	○
		教材開発実習ⅡA（特別支援科学コース）	○	○
		教材開発実習ⅠB（特別支援科学コース）	○	○
		教材開発実習ⅡB（特別支援科学コース）	○	○
		子どもと大人への一次救命処置実習（特別支援科学コース）	○	○

【養護科学コース】

科目区分	授業科目名	ディプロマ・ポリシー		
		子どもを深く理解 できる力	深い専門性	広い視野
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	○	○
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	○	○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）		○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）		○
		主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）		○
		ICT活用とプログラミング	○	○
		心とからだの発達と保健	○	○
		特別支援教育の自立活動の授業づくり	○	○
	生徒指導、教育相談に関する領域	発達障害児の理解と支援	○	○
		子どもの健康と生徒指導	○	
		特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	○	○
	学級経営、学校経営に関する領域	インクルーシブ教育の学校づくり	○	○
		学級力を高めるコミュニケーション	○	
	学校教育と教員の在り方に関する領域	茨城の教育改革と開かれた学校づくり		○
		学校における多様性の受容と活用	○	○
	学校改善と校内研修に関する領域	教育測定（評価）と校内研修	○	○
専門科目	コース別科目	健康科学と社会創造		○
		学校における医学・看護学	○	○
		養護活動と健康増進科学	○	○
		臨床医学特論	○	○
		養護科学課題発見演習		○
		養護科学課題分析演習		○
		養護科学課題解決演習		○
	コース間融合科目	ことばの諸相と教育		○
		社会の数理		○
		あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	○	○
		時間と空間の表現世界		○
		読み・書き・計算のつまずきと支援	○	○
		動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	○	○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ		○
		茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅡ		○
		防災を含む安全に関する教育		○
		持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ		○
実習科目	コース別実習	養護科学実習Ⅰ	○	○
		養護科学実習Ⅱ	○	○
		養護科学実習Ⅲ	○	○
		養護科学実習Ⅳ	○	○
	コース間融合実習	教材開発実習ⅠA（養護科学コース）	○	○
		教材開発実習ⅠB（養護科学コース）	○	○
		子どもと大人への一次救命処置実習（養護科学コース）	○	○

VII 授業時間割

授 業 時 間 割

【月曜日】

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
1	大学院共通科目 & サステイナ	地球環境システム論Ⅰ	1Q		1	オンライン
	大学院共通科目 & サステイナ	人間システム基礎論Ⅱ	2Q		1	GLEC講義室
	大学院共通科目 & サステイナ	持続社会システム論Ⅱ	3Q		1	GLEC講義室
	共通科目	発達障害児の理解と支援	前期	P1	2	B203
	教科領域・特別支援・養護科学	持続可能な開発目標(SDGs)を学ぶ	後期	P1	2	B208
2	共通科目	学級経営実践演習	前期	P1	2	A430
	共通科目	教育測定(評価)と校内研修	後期	P1	2	B202
	教科領域コース	国語科内容総合研究	前期	P1	2	A224
	教科領域コース	社会科科目研究(社会と人間)	前期	P1	2	A525
	教科領域コース	社会科科目研究(法律と政治)	後期	P1	2	A525
	教科領域コース	理科科目研究(エネルギー・粒子)	前期	P1	2	A322
	教科領域コース	技術科内容総合研究	前期	P1	2	C218他
	特別支援科学コース	知的障害児のアセスメントと支援Ⅰ	前期	P1	2	A534
3	共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅰ	1Q	P1	1	B205
	学校運営・教育方法・児童生徒	教育カウンセリング実践と事例研究	後期	P1	2	A430
	教科領域コース	音楽科内容総合研究	後期	P1	2	C436
	教科領域・特別支援・養護科学	茨城に学ぶー地域における教員の在り方ーⅠ	後期	P1	2	B311
4	共通科目	茨城の教育改革と開かれた学校づくり	前期	P1	2	D102
	児童生徒支援コース	学校不適応問題への理解と対応	後期	P1	2	A430
	教科領域コース	美術科科目研究(絵画・彫刻)	後期	P1	2	C101
	特別支援科学コース	感覚障害児のアセスメントと支援	後期	P1	2	A534
	養護科学コース	臨床医学特論	後期	P1	2	オンライン
5	教科領域コース	家庭科内容総合研究	前期	P1	2	C302
	特別支援科学コース	特別支援教育総合演習	前期	P1	2	A532
	特別支援科学コース	特別支援教育課題発見演習	後期	P1	2	A534

授 業 時 間 割

【火曜日】

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
1	共通科目	教師のライフステージと資質向上	前期	P1	2	A430, A433
	教科領域コース	国語科科目研究（国語学・書写書道）	後期	P1	2	D412
	教科領域コース	算数科内容総合研究	前期	P1	2	D310
	教科領域コース	技術科科目研究（材料と加工・生物育成）	後期	P1	2	C215
	教科領域コース	数学科科目研究（代数学・幾何学）	後期	P1	2	D310
2	共通科目	授業研究の方法と実践	前期	P1	2	A430, A433
	学校運営コース	教育行財政と法規	後期	P1	2	A430
	教育方法開発コース	授業研究による授業改善	後期	P1	2	A426
	教科領域コース	社会科科目研究（歴史）	前期	P1	2	A525
	教科領域コース	数学科科目研究（解析学・統計学）	後期	P1	2	D310
	教科領域・特別支援・養護科	読み・書き・計算のつまずきと支援	前期	P1	2	B104
3	学校運営・教育方法・児童生徒	学習指導・学習評価の課題と方法	前期	P1	2	A430
	教科領域コース	社会科内容総合研究	前期	P1	2	A525
	教科領域コース	理科科目研究（生命・地球）	後期	P1	2	A322
	教科領域コース	図画工作科内容総合研究	後期	P1	2	C101
	教科領域コース	技術科科目研究（エネルギー変換・情報）	前期	P1	2	C215
	教科領域コース	英語科内容総合研究	前期	P1	2	A538
	教科領域コース	英語科科目研究（英語学）	後期	P1	2	A538
4	児童生徒支援コース	学級集団づくりとソーシャルスキル教育の実践法	前期	P1	2	A430
	教科領域コース	英語科科目研究（英語文学）	後期	P1	2	A538
3・4	共通科目	特別支援教育の自立活動の授業づくり	1Q	P1	2	B420
5	教科領域コース	家庭科科目研究（人間生活分野）	後期	P1	2	C302
	教科領域コース	家庭科科目研究（生活環境分野）	前期	P1	2	C302

【水曜日】

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	教室
1	大学院共通科目&サステイナ	人間システム基礎論Ⅰ	3Q		1	GLEC講義室

授 業 時 間 割

【木曜日】

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
1	共通科目	心とからだの発達と保健	前期	P1	2	B207
	共通科目	インクルーシブ教育の学校づくり	後期	P1	2	B207
	教育方法開発コース	人間形成の現代的課題と学習指導	前期	P1	2	A430
	教科領域コース	音楽科科目研究（表現）	後期	P1	2	C436
2	共通科目	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（言語・社会・生活科学系）	前期	P1	2	B203
	共通科目	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（自然・科学技術系）	前期	P1	2	B107
	共通科目	主体的・対話的で深い学びの授業づくり（芸術・スポーツ系）	前期	P1	2	B104
	共通科目	学校における多様性の受容と活用	後期	P1	2	B208
	学校運営コース	教育政策の実施と評価	前期	P1	2	A430
	学校運営コース	学校における評価マネジメント実践演習	後期	P1	2	A430
	教育方法開発コース	教材研究と授業設計	前期	P1	2	A426
	教育方法・児童生徒	教育臨床問題と道徳	後期	P1	2	A426
	児童生徒支援コース	学級経営と個別指導の実践	前期	P1	2	A416, A433
3	学校運営コース	スクール・リーダーシップとその実践	前期	P1	2	A430
	学校運営コース	学校危機管理論と実践演習	後期	P1	2	A430
	教科領域コース	社会科科目研究（地理）	後期	P1	2	A525
	教科領域・特別支援・養護科学	あそびに学ぶ-Communication with Imagination-	前期	P1	2	B104
	教科領域・特別支援・養護科学	社会の数理	後期	P1	2	B207
4	学校運営・教育方法・児童生徒	子ども理解にもとづく学習指導	前期	P1	2	A430, A433
	教育方法・児童生徒	子ども理解と学習支援	後期	P1	2	A430
	教科領域コース	理科内容総合研究	後期	P1	2	A421
	教科領域コース	音楽科科目研究（鑑賞）	前期	P1	2	C436
	教科領域・特別支援・養護科学	動きにぎこちなさがみられる子どもの指導方法	前期	P1	2	B205
	教科領域・特別支援・養護科学	教育現場における生成AIの活用方法	後期	P1	2	B311
	養護科学コース	健康科学と社会創造	後期	P1	2	B419
5	学校運営コース	学校運営課題研究Ⅰ	前期	P1	1	A430
	学校運営コース	学校運営課題研究Ⅱ	後期	P1	1	A430
	学校運営コース	学校運営課題研究Ⅲ	前期	P2	1	A430
	学校運営コース	学校運営課題研究Ⅳ	後期	P2	1	A430
	教育方法開発コース	教育方法開発課題研究Ⅰ	前期	P1	1	A528
	教育方法開発コース	教育方法開発課題研究Ⅱ	後期	P1	1	A528

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
	教育方法開発コース	教育方法開発課題研究Ⅲ	前期	P2	1	A528
	教育方法開発コース	教育方法開発課題研究Ⅳ	後期	P2	1	A528
	児童生徒支援コース	児童生徒支援課題研究Ⅰ	前期	P1	1	A433, A426
	児童生徒支援コース	児童生徒支援課題研究Ⅱ	後期	P1	1	A433, A426
	児童生徒支援コース	児童生徒支援課題研究Ⅲ	前期	P2	1	A433, A426
	児童生徒支援コース	児童生徒支援課題研究Ⅳ	後期	P2	1	A433, A426
	教科領域コース	国語科科目研究（国文学・漢文学）	後期	P1	2	D409
	特別支援科学コース	特別支援教育課題分析演習	前期	P2	2	A532
	特別支援科学コース	特別支援教育課題解決演習	後期	P2	2	A532

授 業 時 間 割

【金曜日】

講時	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
1	大学院共通科目 & サステイナ	持続社会システム論Ⅰ	1Q		1	GLEC講義室
	共通科目	学級力を高めるコミュニケーション	前期	P1	2	B209
	教科領域コース	保健体育科科目研究（保健・体育学）	前期	P1	2	D208
	教科領域コース	保健体育科科目研究（運動学）	後期	P1	2	D208
	養護科学コース	学校における医学・看護学	後期	P1	2	B419
2	大学院共通科目 & サステイナ	地球環境システム論Ⅱ	3Q		1	GLEC講義室
	共通科目	教育相談の課題と支援	後期	P1	2	A430
	共通科目	特別支援学校のセンター的機能とケースカンファレンス	前期	P1	2	A534
	学校運営・教育方法・児童生徒	学校を基盤としたカリキュラム開発と実践	前期	P1	2	A430
	教科領域・特別支援・養護科学	防災を含む安全に関する教育	後期	P1	2	B202
3	教科領域・特別支援・養護科学	子どもの健康と生徒指導	後期	P1	2	B207
	学校運営・教育方法・児童生徒	校内研修の企画・立案と実践	後期	P1	2	A430
	教科領域コース	美術科科目研究（デザイン・工芸）	前期	P1	2	C101
4	共通科目	ICT活用とプログラミング	前期	P1	2	B202
	共通科目	学校マネジメント実践演習	後期	P1	2	A430, A433
	教科領域コース	体育科内容総合研究	後期	P1	2	D208
	養護科学コース	養護活動と健康増進科学	後期	P1	2	B414
	特別支援科学コース	障害児の生理機能評価と支援	後期	P1	2	A528

授 業 時 間 割

【集中】

	共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
前期	サステイナ	サステイナビリティ学最前線	前期		2	GLEC講義室
	サステイナ	国内実践教育演習	夏季集 中		2	未定
	サステイナ	ファシリテーション能力開発演習Ⅰ	前期		1	未定
	共通科目	カリキュラム・マネジメントの理論と実践Ⅱ	前期	P1	1	未定
	学校運営コース	課題発見実習(学校運営コース)	前期	P1	2	未定
	教育方法開発コース	課題発見実習(教育方法開発コース)	前期	P1	2	未定
	児童生徒支援コース	学校適応アセスメント実習	前期	P2	3	未定
	児童生徒支援コース	課題発見実習(児童生徒支援コース)	前期	P1	2	未定
	教科領域コース	教科領域実習Ⅱ	前期	P2	3	未定
	教科領域コース	教材開発実習ⅠA(教科領域コース)	前期	P1	1	未定
	教科領域コース	教材開発実習ⅡA(教科領域コース)	前期	P2	1	未定
	教科領域コース	子どもと大人への一次救命処置実習(教科領域コース)	前期	P1	1	未定
	特別支援科学コース	特別支援学校の授業づくり	前期	P1	2	未定
	特別支援科学コース	特別支援教育教材開発実習Ⅰ	前期	P1	1	未定
	特別支援科学コース	特別支援教育教材開発実習Ⅱ	前期	P2	1	未定
	特別支援科学コース	教材開発実習ⅠA(特別支援科学コース)	前期	P1	1	未定
	特別支援科学コース	教材開発実習ⅡA(特別支援科学コース)	前期	P2	1	未定
	特別支援科学コース	子どもと大人への一次救命処置実習(特別支援科学コース)	前期	P1	1	未定
	養護科学コース	養護科学課題分析演習	前期	P2	2	未定
	養護科学コース	教材開発実習ⅠA(養護科学コース)	前期	P1	1	未定
	養護科学コース	子どもと大人への一次救命処置実習(養護科学コース)	前期	P1	1	未定
後期	学校運営コース	学校運営開発実習Ⅰ	後期	P1	3	未定
	教育方法開発コース	教育方法開発実習Ⅰ	後期	P1	3	未定
	児童生徒支援コース	児童生徒支援実習	後期	P1	3	未定
	児童生徒支援コース	学校適応支援実習	後期	P2	2	未定
	特別支援科学コース	特別支援教育アセスメント実習Ⅰ	後期	P1	1	未定
	特別支援科学コース	特別支援教育アセスメント実習Ⅱ	後期	P2	1	未定
	養護科学コース	養護科学課題発見演習	後期	P1	2	未定
	養護科学コース	養護科学課題解決演習	後期	P2	2	未定
	養護科学コース	養護科学実習Ⅳ	後期	P1	2	未定
通年	サステイナ	国際実践教育演習	通年		2	未定
	学校運営コース	学校運営実践研究Ⅰ	通年	P1	1	未定

共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
学校運営コース	学校運営実践研究Ⅱ	通年	P2	1	未定
学校運営コース	学校運営開発実習Ⅱ	通年	P2	5	未定
教育方法開発コース	教育方法開発実践研究Ⅰ	通年	P1	1	未定
教育方法開発コース	教育方法開発実践研究Ⅱ	通年	P2	1	未定
教育方法開発コース	教育方法開発実習Ⅱ	通年	P2	5	未定
児童生徒支援コース	児童生徒支援実践研究Ⅰ	通年	P1	1	未定
児童生徒支援コース	児童生徒支援実践研究Ⅱ	通年	P2	1	未定
教科領域コース	国語科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	国語科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	社会科総合演習ⅠA	通年	P1	2	未定
教科領域コース	社会科総合演習ⅠB	通年	P1	2	未定
教科領域コース	社会科総合演習ⅡA	通年	P2	2	未定
教科領域コース	社会科総合演習ⅡB	通年	P2	2	未定
教科領域コース	数学科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	数学科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	理科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	理科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	音楽科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	音楽科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	美術科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	美術科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	保健体育科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	保健体育科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	技術科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	技術科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	家庭科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	家庭科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	英語科総合演習Ⅰ	通年	P1	2	未定
教科領域コース	英語科総合演習Ⅱ	通年	P2	2	未定
教科領域コース	課題探索演習	通年	P1	2	未定
教科領域コース	教科領域実習Ⅰ	通年	P1	3	未定
教科領域コース	教科領域実習Ⅲ	通年	P2	5	未定
教科領域コース	教材開発実習ⅠB（教科領域コース）	通年	P1	1	未定
教科領域コース	教材開発実習ⅡB（教科領域コース）	通年	P2	1	未定

共通科目/コース別	授業科目の名称	開講学 期・ク ォー ター	年次	単位	令和7年度使用教室予定
特別支援科学コース	課題探索演習	通年	P1	2	未定
特別支援科学コース	特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅰ	通年	P1	1	未定
特別支援科学コース	特別支援教育ケースカンファレンス実習Ⅱ	通年	P2	1	未定
特別支援科学コース	特別支援教育授業改善実習	通年	P2	5	未定
特別支援科学コース	教材開発実習ⅠB（特別支援科学コース）	通年	P1	1	未定
特別支援科学コース	教材開発実習ⅡB（特別支援科学コース）	通年	P2	1	未定
養護科学コース	課題探索演習	通年	P1	2	未定
養護科学コース	養護科学実習Ⅰ	通年	P1	2	未定
養護科学コース	養護科学実習Ⅱ	通年	P2	4	未定
養護科学コース	養護科学実習Ⅲ	通年	P2	4	未定
養護科学コース	教材開発実習ⅠB（養護科学コース）	通年	P1	1	未定

VIII 教員への連絡方法・ オフィスアワー等

令和7年度教員オフィスアワー一覧表

コース/教室		教 員 名	オ フ ィ ス ア ワ ー (曜 日 ・ 講 時)	研 究 室	メ ー ル ア ド レ ス
学校運営コース		鈴 木 稔	木 4 講時	A 2 1 6	minoru.suzuki.eb66@vc.ibaraki.ac.jp
		長 谷 川 眞 人	木 2 講時	A 2 1 7	masato.hasegawa.cx83@vc.ibaraki.ac.jp
		加 藤 崇 英	前・火 3 講時 後・木 3 講時	A 4 0 4	takahide.kato.365@vc.ibaraki.ac.jp
		高 野 貴 大	火 4 講時	A 4 1 4	takahiro.takano.hj26@vc.ibaraki.ac.jp
教育方法開発コース		生 越 達	木 3 講時	A 4 1 2	toru.ogose.heidegger@vc.ibaraki.ac.jp
		打 越 正 貴	水 昼休み	A 4 1 5	masaki.uchikoshi.edu@vc.ibaraki.ac.jp
		杉 本 憲 子	前・木 3 講時 後・火 11:50~12:40	A 4 1 1	noriko.sugimoto.ns@vc.ibaraki.ac.jp
		宮 本 浩 紀	月 3 講時	A 4 1 0	hiroki.miyamoto.akane@vc.ibaraki.ac.jp
児童生徒支援コース		三 輪 壽 二	水 昼休み	A 4 0 5	syuji.miwa.0326@vc.ibaraki.ac.jp
		渡 部 玲 二 郎	木 2 講時	A 4 0 2	reijirou.watanabe.psy@vc.ibaraki.ac.jp
		安 暁 彦			
教科領域コース	国 語	昌 子 佳 広	前・火 3 講時 後・火 2 講時	D 4 0 2	yoshihiro.shoji.1965@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	齋 木 久 美	水 2 講時	D 4 0 5	kumi.saiki.9331@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	鈴 木 一 史	前・金 2 講時 後・木 2 講時	D 4 0 4	kazufumi.suzuki.edu@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	宮 崎 尚 子	前・月 12:30~13:00 後・木 12:30~13:00	D 4 0 8	naoko.miyazaki.edu@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	李 満 紅	前・月 12:30~13:00 後・木 12:30~13:00	D 4 0 7	manhong.li.cd74@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	鈴 木 裕 也	月 3 講時	D 4 0 6	yuya.suzuki.nd30@vc.ibaraki.ac.jp
	社 会 科	木 村 勝 彦	前・月 4 講時 後・火 4 講時	A 5 1 5	katsuhiko.kimura.kachiyu@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	千 葉 真 由 美	前・金 2 講時 後・火 2 講時	A 5 1 8	mayumi.chiba.8218@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	池 庄 司 規 江	前・火 3 講時 後・木 1 講時	A 2 1 4	norie.ikeshoji.nl@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	佐 藤 邦 政	前・月 昼 (12:30~13:00) 後・木 昼 (12:30~13:00)	A 5 1 9	kunimasa.sato.np11@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	松 村 好 恵	前・火 昼休み 後・金 3 講時	A 5 2 0	yoshie.matsumura.xb33@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	金 久 保 響 子	火 3 講時	A 5 1 6	kyoko.kanakubo.gn71@vc.ibaraki.ac.jp
	数 学	小 口 祐 一	火 5 講時	D 3 0 1	yuichi.oguchi.mathedu@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	梅 津 健 一 郎	前・月 4 講時 後・月 3 講時	D 3 0 7	kenichiro.umezu.math@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	栗 原 博 之	月 12:30~13:00	D 3 0 3	hiroyuki.kurihara.math@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	松 村 初	火 昼休み	D 3 0 2	hajime.matsumura.math@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	吉 井 豊	火 2 講時	D 3 0 8	yutaka.yoshii.6174@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	荻 原 文 弘	火 2 講時	D 3 0 6	fumihiro.ogihara.mathedu@vc.ibaraki.ac.jp

コース/教室		教 員 名	オ フ ィ ス ア ウ ー (曜 日 ・ 講 時)	研 究 室	メ ー ル ア ド レ ス
教科領域コース	理 科	伊 藤 孝	火 2 講時	A 3 0 1	takashi.ito.geo@vc.ibaraki.ac.jp
	"	阿 部 信 一 郎	木 3 講時	A 3 1 4	shin-ichiro.abe.howling@vc.ibaraki.ac.jp
	"	青 島 政 之	水 2 講時	A 3 1 5	masayuki.aoshima.pc@vc.ibaraki.ac.jp
	"	永 尾 敬 一	水 2 講時	A 3 0 8	keiichi.nagao.phys@vc.ibaraki.ac.jp
	"	上 栗 伸 一	金 3 講時	A 3 0 2	shin-ichi.kamikuri.millefeuille@vc.ibaraki.ac.jp
	"	棗 田 孝 晴	木 2 講時	A 3 0 7	takaharu.natsumeda.ecol@vc.ibaraki.ac.jp
	"	郡 司 晴 元	月 4 講時	A 4 1 9	harumoto.gunji.365@vc.ibaraki.ac.jp
	"	宮 本 直 樹	木 昼 (12:20~13:10)	A 4 1 8	naoki.miyamoto.se@vc.ibaraki.ac.jp
	音 楽	谷 川 佳 幸	木 2 講時	C 4 0 6	yoshiyuki.tanigawa.tenore@vc.ibaraki.ac.jp
	"	山 口 哲 人	前・火 4 講時 後・火 5 講時	C 4 0 5	akihito.yamaguchi.music@vc.ibaraki.ac.jp
	"	田 中 宏 明	火 5 講時	C 4 0 7	hiroaki.tanaka.piano@vc.ibaraki.ac.jp
	"	秋 葉 桃 子	月 3 講時 月 4 講時	C 4 0 9	momoko.akiba.uv40@vc.ibaraki.ac.jp
	美 術	島 田 裕 之	火 2 講時	C 1 0 6	hiroyuki.shimada.prof@vc.ibaraki.ac.jp
	"	甲 斐 教 行	木 4 講時	C 1 0 7	noriyuki.kai.nrykai@vc.ibaraki.ac.jp
	"	齋 藤 芳 徳	木 昼休み (12:30~13:00)	B 4 0 1	yoshinori.saito.4401@vc.ibaraki.ac.jp
	"	片 口 直 樹	月 1 講時	C 1 0 9	naoki.kataguchi.painting@vc.ibaraki.ac.jp
	"	小 口 あ や	前・木 3 講時 後・火 4 講時	C 1 0 5	aya.koguchi.art@vc.ibaraki.ac.jp
	保 健 体 育	吉 野 聡	水 昼休み	D 2 0 5	satoshi.yoshino.615@vc.ibaraki.ac.jp
	"	渡 邊 將 司	火 昼休み	D 2 1 0	masashi.watanabe.1978@vc.ibaraki.ac.jp
	"	上 地 勝	火 4 講時	D 2 0 3	masaru.ueji.he@vc.ibaraki.ac.jp
	"	中 嶋 哲 也	金 昼休み	D 1 0 3	tetsuya.nakajima.anthropology@vc.ibaraki.ac.jp
	"	大 津 展 子	水 昼休み	D 2 0 4	nobuko.otsu.1008@vc.ibaraki.ac.jp
	"	篠 田 明 音	月 昼休み (12:30~13:00)	A 2 1 5	akane.shinoda.marron@vc.ibaraki.ac.jp

コース/教室		教 員 名	オ フ ィ ス ア ウ ー (曜 日 ・ 講 時)	研 究 室	メ ー ル ア ド レ ス
教科領域コース	技 術	工 藤 雄 司	木 2 講時	C 2 0 8	yuji.kudo.tech@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	榑 守	月 1 講時	C 2 0 9	mamoru.sakaki.exp1@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	野 崎 英 明	月 4 講時	C 2 1 1	hideaki.nozaki.tech@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	大 西 有	月 1 講時	C 2 0 6	tamotsu.onishi.tech@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	川 路 智 治	木 2 講時	C 2 1 0	tomoharu.kawaji.pq19@vc.ibaraki.ac.jp
	家 政	野 中 美 津 枝	木 昼休み	C 3 0 8	mitsue.nonaka.edu@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	西 川 陽 子	水 昼休み	C 3 0 4	yoko.nishikawa.3@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	佐 藤 裕 紀 子	金 3 講時	C 3 0 7	yukiko.sato.frm@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	石 島 恵 美 子	木 昼休み	C 2 0 3	emiko.ishijima.ei@vc.ibaraki.ac.jp
	英 語	君 塚 淳 一	火 5 講時	A 5 0 3	junichi.kimizuka.kimi616@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	小 林 英 美	月 昼休み (12:30~13:00)	A 5 0 2	hidemi.kobayashi.phd@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	齋 藤 英 敏	火 4 講時	A 5 0 1	hidetoshi.saito.cldwtr@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	安 原 正 貴	火 昼休み	A 5 0 4	masaki.yasuhara.flower@vc.ibaraki.ac.jp
	〃	青 田 庄 真	木 3 講時	A 5 0 5	shoma.aota.zm74@vc.ibaraki.ac.jp
特別支援科学コース		勝 二 博 亮	月 昼休み	A 5 1 1	hiroaki.shoji.m@vc.ibaraki.ac.jp
		新 井 英 靖	月 3 講時	A 5 0 7	hideyasu.arai.310@vc.ibaraki.ac.jp
		細 川 美 由 紀	月 昼休み	A 5 0 9	miyuki.hosokawa.299@vc.ibaraki.ac.jp
		田 原 敬	月 昼休み	A 5 1 2	kei.tabaru.k@vc.ibaraki.ac.jp
		石 田 修	月 2 講時	A 5 1 0	osamu.ishida.jk33@vc.ibaraki.ac.jp
		井 口 亜 希 子	火 2 講時	A 5 0 8	akiko.iguchi.um26@vc.ibaraki.ac.jp
養護科学コース		瀧 澤 利 行	前・火 3 講時 後・水 2 講時	B 4 0 9	toshiyuki.takizawa.1298@vc.ibaraki.ac.jp
		石 原 研 治	水 2 講時	B 4 1 2	kenji.ishihara.phd@vc.ibaraki.ac.jp
		竹 下 智 美	前・火 2 講時 後・水 昼休み	B 4 1 1	tomomi.takeshita.5281@vc.ibaraki.ac.jp
		青 柳 直 子	水 1 講時	B 4 1 3	naoko.aoyagi.cr@vc.ibaraki.ac.jp
		古 池 雄 治	水 昼休み	B 4 0 8	yuji.koike.md@vc.ibaraki.ac.jp
		土 方 郁 美	木 2 講時	B 4 1 0	ikumi.hijikata.sc15
		布 施 泰 子			yasuko.fuse.uhc@vc.ibaraki.ac.jp
		渡 邊 雅 彦			masahiko.watanabe.mdphd@vc.ibaraki.ac.jp

コース/教室	教 員 名	オ フ ィ ス ア ウ ー (曜 日 ・ 講 時)	研 究 室	メ ー ル ア ド レ ス
教育学部 学校教育教室	佐 藤 環	月 昼休み	A 4 0 8	tamaki.satou.spitfire@vc.ibaraki.ac.jp
	今 泉 友 里	水 昼休み	A 4 0 1	yuri.imaizumi.yama@vc.ibaraki.ac.jp
	坂 本 達 也	月 木 昼休み (12:30-13:00) 2 講時	A 4 0 9	i240012c@vc.ibaraki.ac.jp
全学教職センター	五 島 浩 一	火 2 講時	A 2 2 6	kouichi.gotou.36@vc.ibaraki.ac.jp

上記に記載されていない、授業担当教員に連絡を取りたい場合は、教育学部学務グループまで問い合わせること。

IX 科目ナンバリングコード

ナンバリングコードについて

大学院学生便覧の開講授業科目一覧に記載されているナンバリングコードは、教育課程における当該授業の位置づけ等を示したコードであり、体系的な教育課程を編成するため、次の項目についてアルファベットや数字で表示したものである。

《例》

P	—	EDU	—	6	—	SEP
①		②		③		④

① 部局コード

該当科目を実施する部局を示すコードである。

大学院共通科目は「KM」、教育学研究科は「P」がついている。

他研究科は「L」（人文社会科学研究科）、「N」（理工学研究科）、「A」（農学研究科）がついている。

② 学問分野コード

当該授業科目の学問分野を示すコードである。学問分野コードの一覧は別表を参照すること。

③ 難易度コード

難易度コードは、各部局分野における当該授業科目の難易度を示すものである。

専門職学位課程共通科目・・・6

専門職学位課程専門科目及び実習科目・・・7

④ 教育プログラムコード

当該授業科目を構成科目とする教育プログラムを示すもの。

- ・サステイナビリティ学教育プログラム・・・SEP
- ・地域志向教育プログラム・・・COE

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

● 学問分野コード一覧（アルファベット順）

コード	学問分野	英訳名
AAG	代数幾何学	Algebra and geometry
AAS	水圏応用化学	Applied aquatic science
ABE	建築学	Architecture and building engineering
ABS	農学基礎科目	Agricultural Basic Subjects
AEE	建築環境・設備	Architectural environment/Equipment
AGC	農芸化学	Agricultural chemistry
AGE	農業工学	Agro-engineering
AHD	建築史・意匠	Architectural history/Design
ALG	代数学	Algebra
ALS	動物生命科学	Animal life science
ANA	解析学	Analysis
ANT	人類学	Anthropology
APC	複合化学	Applied chemistry
APM	応用数学	Applied Mathematics
APP	応用物理学	Applied physics
APS	畜産学	Animal Production Science
ARC	考古学	Archaeology
ARS	地域研究	Area studies
ART	芸術学	Art studies
ASE	社会経済農学	Agricultural science in society and economy
AST	天文学	Astronomy
BAA	解析学基礎	Basic analysis
BAB	基礎生物学	Basic biology
BAC	基礎化学	Basic chemistry
BAM	基礎医学	Basic medicine
BAN	看護学	Basic nursing
BIE	人間医工学	Biomedical engineering

コード	学問分野	英訳名
BMS	生体分子科学	Biomolecular science
BOA	境界農学	Boundary agriculture
BRS	脳科学	Brain sciences
BSM	建築構造・材料	Building structures/Materials
CAM	文化財科学・博物館学	Cultural assets study and museology
CBR	生物資源保全学	Conservation of biological resources
CCC	土木材料・施工・建設マネジメント	Civil engineering materials/Construction/Construction management
CEE	土木環境システム	Civil and environmental engineering
CHC	漢文学	Chinese Classic
CHD	保育学	Child Development
CHE	化学	Chemistry
CHI	中国語	Chinese
CHS	子ども学	Childhood science
CIE	土木工学	Civil engineering
CLM	臨床医学	Clinical medicine
CMS	計算材料学	Computational Materials Science
CNE	通信・ネットワーク工学	Communication/Network engineering
COA	コンピュータ応用	Computer Application
COE	制御工学/制御・システム工学	Control engineering
COM	コミュニケーション学	Communication
COP	調理学実習	Cooking Practicum
COS	認知科学	Cognitive science
CPS	計算機システム	Computer system
CRC	異文化コミュニケーション	Cross-cultural communication
CSC	計算科学	Computational science
CSN	コンピュータシステムとネットワーク	Computer Systems and Networks

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

BIO	生物学	Biology
BIS	生物科学	Biological Science
コード	学問分野	英訳名
CUA	文化人類学	Cultural anthropology
CUL	栽培学	Cultivation
CUS	文化研究	Cultural studies
DEE	設計工学	Design engineering
DES	デザイン学	Design science
EAE	環境解析学	Environmental analyses and evaluation
EAS	地学	Earth science
ECC	電気回路	Electric Circuit
ECO	経済学	Economics
EDS	教育科学	Educational science
EDT	教育工学	Educational technology
EDU	教育学	Education
ELC	電子回路	Electronic Circuit
ELD	電子デバイス・電子機器	Electron device
ELE	電気エネルギー	Electric Energy
ELM	電子・電気材料工学	Electric materials
EMA	電磁気学	Electromagnetic
ENC	環境保全学	Environmental conservation
ENE	エネルギー工学	Energy engineering
ENG	英語	English
EPS	地球惑星科学	Earth and planetary science
EST	組み込みシステム技術	Embedded System Technology
ETH	倫理学	Ethics
EXP	実験（特別実験等）	Experiment
FFP	森林園科学	Forest and forest products science
FLE	流体工学	Fluid engineering

CTE	土木計画学・交通工学	Civil engineering project/Traffic engineering
CTS	被服学	Clothing and Textile Science
コード	学問分野	英訳名
FRM	生活経営学	Family Resource Management
GEE	地盤工学	Geotechnical engineering
GEL	地質学	Geology
GEM	幾何学	Geometry
GEN	ジェンダー	Gender
GEO	地理学	Geography
GER	ドイツ語	German
GHS	グローバル化と人間社会	Globalization and Human society
GNS	ゲノム科学	Genome science
GRE	ギリシア語	Greek
GRT	卒業論文・卒業研究	Graduation thesis
HEE	家庭科教育学	Home Economics Education
HII	ヒューマンインタフェース・インタラクション	Human interface and interaction
HIS	歴史学	History
HLS	生活科学	Human life science
HOS	住居学	Housing Science
HSS	健康・スポーツ科学	Health/Sports science
HUG	人文地理学	Human geography
HUI	人間情報学	Human informatics
HUM	ヒューマニティーズ	Humanities
HYE	水工学	Hydraulic engineering
IBS	茨城学	Ibaraki Studies
ICT	情報とコンピュータ	Information and Computer Technology
IFS	情報セキュリティ	Information security
IIP	情報処理概論	Introduction to Information Processing
INE	生産工学	Industrial engineering

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

FOI	情報学フロンティア	Frontiers of informatics
FOS	食物学	Food Science
FQS	量子基礎科学	Fundamental Quantum Science
FRE	フランス語	French
コード	学問分野	英訳名
INS	学際科目・総合科目	Interdisciplinary Studies
INT	インターンシップ	Internship
ISS	社会科学入門	Introduction to Social Science
JPN	日本語	Japanese
KOR	朝鮮語	Korean
LAN	その他の語学	Language
LAS	実験動物学	Laboratory animal science
LAW	法学	Law
LIN	言語学	Linguistics
LIT	文学	Literature
LID	ライフデザイン	Life Design
MAC	材料化学	Materials chemistry
MAE	材料工学	Material engineering
MAI	数理情報学	Mathematical informatics
MAN	経営学	Management
MAS	生産技術工学	Manufacturing Systems
MAT	数学	Mathematics
MCI	情報数学	Mathematics for Computer and Information Sciences
MED	機械力学	Mechanical dynamics
MEE	計測工学	Measurement engineering
MEI	電子機能材料学	Materials Science for Electronic and Information Devices
MEW	金属加工学	Metal Working
MFE	機械機能要素	Machine functional elements
MFP	数理物理・物性基礎	Mathematical physics/Fundamental condensed matter physics

INF	情報学	Informatics
INI	知能情報学	Intelligence Informatics
INL	情報リテラシー	Information Literacy
INM	知能機械学	Intelligent mechanics
コード	学問分野	英訳名
NEM	中性子材料科学	Neutron Materials Science
NEU	神経科学	Neuroscience
NMS	ナノ・マイクロ科学	Nano/Micro science
NUE	原子力工学	Nuclear engineering
OED	光・電子デバイス	Optical and Electric device
ONC	腫瘍学	Oncology
OPE	光工学	Optical engineering
PAA	パフォーマンス & アート	Performance and Art
PCE	プロセス・化学工学	Process/Chemical engineering
PCI	情報科学基礎	Principles of Computer and Information Sciences
PEA	生産環境農学	Plant production and environmental agriculture
PHA	身体活動	Physical Activities
PHI	哲学	Philosophy
PHY	物理学	Physics
PIP	知覚情報処理	Perceptual information processing
PLS	プラズマ科学	Plasma science
POE	パワーエレクトロニクス	Power Electronics
POI	情報学基礎/計算基盤	Principles of Informatics
POL	政治学	Politics
PRA	実習（特別実習等）	Practice
PRE	プレゼンテーション	Presentation
PSY	心理学	Psychology
PUH	保健学演習	Public health
QBS	量子ビーム科学	Quantum beam science

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

MIT	経営情報技術	Management of Information Technology
MMP	材料組織・プロセス学	Materials Microstructure & Processing Engineering
MOM	材料力学	Mechanics of Materials
MUD	マルチメディア・データベース	Multimedia database
MUL	総合・複合分野	Multi
NEH	自然・環境と人間	Nature,the Environment and the human Race

RES	研究（特別研究等）	Research
RIS	リスク科学	Risk Science
SCH	学校保健学	School health
SED	環境創成学	Sustainable and environmental system
SEM	構造工学・地震工学・維持管理工学	Structural engineering/Earthquake engineering/Maintenance management engineering
SFC	ソフトコンピューティング	Soft computing

コード	学問分野	英訳名
SFH	健康の科学	Science for Health
SHS	科学社会学・科学技術史	Sociology/History of science and technology
SMI	演習・ゼミナール（特別演習、卒業論文関連ゼミナール、卒業研究ゼミナール、基礎演習、主題別ゼミナール等）	Seminars
SNT	養護実践学	School nurse teacher practice
SOC	社会学	Sociology
SOM	材料強度物性学	Strength of Materials
SPA	スペイン語	Spanish
SSS	社会・安全システム科学	Social/Safety system science
SST	ソフトウェア学	Software Science and Technology
STB	構造生物学	Structural Biology
STS	統計科学	Statistical science
TAP	都市計画・建築計画	Town planning/Architectural planning
TEE	技術英語	Technical English
THE	熱工学	Thermal engineering
TOS	観光学	Tourism Studies
WOW	木材加工学	Wood Working

● 教育プログラムコード一覧（アルファベット順）

コード	教育プログラム名
GCP	グローバルコミュニケーションプログラム
COE	地域志向教育プログラム
SUS	サステイナビリティ学教育プログラム

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

ENT	アントレプレナーシップ教育プログラム
MDA	数理・データサイエンス・AI教育プログラム
JTP	日本語教師養成プログラム
SEP	サステイナビリティ学教育プログラム